

2017年度 大学全体 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

大学を含む学園（学校法人東海大学）は、全体の理念として「建学の精神」（資料 A-1 p. 1、A-2）を掲げている。

建学の精神（資料 A-1 p. 1 A-2 建学の精神）

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会や講演会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになった。とくにデンマークにおける教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設した。ここに本学の学園の原点がある。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げた。

若き日に汝の思想を培え

若き日に汝の体躯を養え

若き日に汝の智能を磨け

若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけている。本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けている。

この建学の精神に基づいた本学の教育理念としては、「知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて自ら考える力を養う教育に努める。また本学は知識偏重ではなく、学生一人ひとりの素質を伸ばす支援をすることで、個性ある多様な人材を社会に送り出すことを目指す。とくに、人材を育成するための教育理念として、「自らの思想を培う」「学生一人ひとりの素質の伸張を支援する」「文理融合の幅広い知識と国際性豊かな視野の獲得」を定めた。

https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/（資料 A-3 p. 2-3）

また、「明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材の育成を通して、調和のとれた文明社会を建設する」ことを東海大学の使命としている。

上記の「建学の精神」および「教育の理念」を基に、20 学部および 76 学科・課程ごと、

20 研究科および 55 専攻ごとに、「教育研究上の目的及び養成する人材像」が設定され、これらは大学 Web サイトおよび授業要覧に掲載されている。その内容については、膨大なものとなるため、根拠資料（資料 A-4、5）を参照されたい。

これらの関連性は、各学部・各研究科において検証され、教育・研究との関連性を担保している。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本学は、前述した建学の精神及び教育理念に基づき、「人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的」を東海大学学則、東海大学大学院学則で以下の通り定め、これを学内刊行物、Web サイト、各種ガイダンスを通じて学生及び教職員へ周知している。

大学の目的は、東海大学学則（資料 A-4）第 1 条で、「人道に根ざした深い教養をもつ有能な人物を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。」と定められており、学部・学科の目的は、東海大学学則別表 1（資料 A-5）で定めている。

大学院の目的は東海大学大学院学則（資料 A-6）第 1 条で、「東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。」と定めている。また、研究科においては、人材の養成に関する目的その他の研究教育上の目的については、東海大学大学院学則別表 1（資料 A-7）で定めている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

これらの学則に基づいた教育活動を展開するにあたって、2014 年度から第Ⅱ期中期目標（2014 年度～2017 年度）（資料 A-8）を定め、「教育」「研究」「社会連携」「国際連携」の他に、組織強化のための「管理・支援体制」を追加し、5 つの柱を定めた。このことにより、大学組織が社会と連携を強化している。

また、学則に基づいた教育活動を実施するために、各学部・各研究科では、3 つのポリシー（学位授与方針 DP、教育課程編成方針 CP・学生受け入れ方針 AP）（資料 A-9）を定め、教育活動を実践している（資料 A-4、A-9～11）。この 3 つのポリシーについては検討プロ

ジェクト（資料 A-12）を立ち上げ、東海大学教育審議会の中で検証されている。

その中で、前述した建学の精神及び教育理念に基づいた「人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的」を具現化するためには、物事の本質を見極め、独自の判断力を持ち（「自ら考える力」）、その上で困難な問題に互いに協力し合い（「集い力」）、果敢に挑戦し（「挑み力」）、時代を切り拓ける（「成し遂げ力」）人材が求められている。そうした能力は、特定の専門分野だけに偏った教育では養成することができず、逆に、従来のような初歩的・基礎的な教養教育でも養成できない。そこで、本学では、前述の教育理念を具現化するため、とくに社会の主要な構成員となる学士課程における人材育成像として、専門知識を社会で役立てるために必要な教養を身につけさせるため、4つの力「自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力をもった人材の育成」を掲げ、それぞれの力を身につけることを目的とした、東海大学型リベラルアーツ教育を実施している。（資料 A-1 p.17、A-3 pp.168）

4つの力「自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力をもった人材の育成」

自ら考える力：学習力、思考力、探求力

集い力：コミュニケーション力、関係構築力、アイデンティティ獲得

挑み力：問題発見力、構想力、プランニング力

成し遂げ力：工程管理力、実行と継続力、分析と修正力

こうした大学の教育理念については、本学独自の全学部必修科目である「現代文明論」の中で、本学設立の歴史も含め学生に伝えている。

（2）長所・特色

本学では、東海大学の建学の精神を具現化するための取り組みとして、多様な学生に対する受け入れ体制の整備・促進、キャリア形成支援、チャレンジセンターなどの特色ある教育の展開、テニユアトラック制度など多くの改革を実施してきた。今後、ボーダレス化とグローバル化が一層進む中で、大学の教育研究の質を向上させるには、大学の果たす役割を拡大し、国際水準に適応した教育研究の質の確保が重要になってくる。

教育研究の質の確保を図るために、本学では、第Ⅰ期中期目標（2009年度から2013年度）（資料 A-13）とその後続く、第Ⅱ期中期目標（2014年度から2017年度）（資料 A-8）を設定した。また、大学全体の中期目標を具体的に取り組むためのツールとして、ミッション・シェアリング・シート（以下、MSシート）（資料 A-14）を策定した。前述した本学における教育研究の質保証を含めた内部質保証に関する取り組みの詳細については、基準2で述べる。

本学は、北海道から九州までの8キャンパスを擁し、教育・研究の多様性を実現するとともに地域社会への貢献にも努めてきたこと、20学部20研究科を基盤として充実した教養教育を実現し、また学際的な研究・教育を進めてきたこと、世界39カ国・地域の123大学・機関と学術交流協定を結び、学生のみならず、教員による研究交流、共同研究、スポーツ交流など幅広い国際活動を展開してきていること等、他の大学にない本学ならではの個性とその強みを形成しており、毎年、2万9千人近くの学生の教育・研究活動を展開している。（資料 A-1 pp.11-12、pp.28-29、A-15）本学の理念・目的が適切であったことは、これまで75年の歴史の中で、本学が社会的に有為な人材を育て、社会のそれぞれの領

域における先駆者を輩出）し（資料 A-3 pp.10-15）、公務員採用合格者数、社長の出身大学、スポーツ選手の育成数等で上位を占めていることから明らかである（資料 A-15）。また、イギリスの大学評価機関「クアクアレリ・シモンズ社（Quacquarelli Symonds:QS）」が公表している大学ランキング及びイギリスのタイムズ社が公表している世界大学ランキング（The Times Higher Education:THE）の双方に、日本の私立大学としてランクインしていることも理念・目的の適切性を示している。（資料 A-3 p.16）

（３）問題点

大学基準協会の認証評価において、学部・研究科における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の整備と検証体制について課題があるとの指摘があった。この点を改善するために、上記３ポリシーについて改定案を作成し、検証作業を進めた。

（４）全体のまとめ

本学は、知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて自ら考える力を養う教育に努めている。さらに本学は、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と、多文化を理解し、国際性豊かな視野を持つ人材の育成をより一層深めるために、全学必修科目としてシティズンシップ・ボランティア・地域理解・国際理解を2018年度から開講すべく、準備を進めている。

（５）根拠資料

- A-1 学校法人東海大学 学園総覧 2017
- A-2 東海大学オフィシャルサイト（建学の精神）
<http://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/spirit/>
- A-3 東海大学 TOKAI UNIVEERSITY GUIDE BOOK 2017（大学案内）
- A-4 東海大学学則
- A-5 東海大学学則 別表 1
- A-6 東海大学大学院学則
- A-7 東海大学大学院学則 別表 1
- A-8 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2017年度）
https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html
- A-9 東海大学オフィシャルサイト（3つのポリシー）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>
- A-10 2017年度 東海大学大学院ガイド
- A-11 2017年度 東海大学大学院ガイド工学研究科
- A-12 第1回3つのポリシー検討プロジェクト会議_会議録
- A-13 東海大学第Ⅰ期中期目標（2009年度～2013年度）
http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index1.html
- A-14 ミッション・シェアリング・シート（MSシート）サンプル
- A-15 東海大学 POKET DATA2017

2017 年度 文学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

文学部では、人類が蓄積してきた叡智を人類共通の財産として伝え、同時にその知識を未来を生きるために活かせるような人材、すなわち、各人が学んで得た知識をもって複雑化し混迷する現実の問題を分析し、自分自身の見識によって判断、解決する方法を模索し、的確に意見として発信できる人材の育成を教育理念として掲げている。（資料 1-2-1-1 II-4）

文学部ではこうした教育理念に基づき、教育研究上の目的及び養成する人材像（ディプロマ・ポリシー）として、「人類の叡智と歴史認識とを学び、人文・社会科学の各専門分野について自らの問題意識に即して理解する基礎的能力」、「主体的に設定した専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を様々な表現形式を通じて積極的に発信していく能力」、「激しく変動する現代の課題に主体的に取り組み、新たな世界の構築に貢献しようとする姿勢」を備えた者に学位を授与することとを定めている（資料 1-2-1-2）。また、学部・学科の目的は、「東海大学学則 別表 1」（資料 1-2-1-3）において、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的を定めている。

本学創立者は建学の精神の下で「人類文明のあり方を問う」新たな学問・教育の必要性から、既成の文学部を超えた新しい学部を構想した。そうした先進的な構想が文明学科・北欧文学科（当時）・広報学科（当時）などの特色ある学科設置の発露となる。この姿勢は全ての学科に通底する教育理念である。文明・歴史系 9 学科・専攻での学びは私たちが生きる時間と場所を巡る切実な問題に接続し、言語・文学・社会系 5 学科ではメッセージを交わす現代人の心そのものを主題として学ぶ。そこから学生一人一人に多様で斬新な発想とアイデアの結晶化を促し、時代を変革してゆく原動力としての新たな社会観、世界観を備えた人材の輩出を目指す、その理念・目的は適切に設定されている（資料 1-2-1-4 pp. 52-67）。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごと

に設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

文学部および各学科の教育理念・目的は、学生に配布される「授業要覧」（資料 1-2-1-1 II、III）で学内に周知されている。また、受験生向けに発行される「東海大学 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2017（大学案内）」（資料 1-2-1-4 pp.52-67）、「学科案内」（資料 1-2-1-5）、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-1-2）等への掲載により、大学構成員および受験生を含む社会一般に向けて公表されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

文学部では 2001 年度の改組改編の際に現在の教育理念・目的が定められ、2005 年度、2010 年度のカリキュラム改訂時に理念・目的の一層の具現化が図られた。その後は理念・目的を実現するための諸施策の適切さと成果の検証が行われた。しかし、2015 年度に 2017 年の建学 75 周年を見すえた「育成すべき人材像」の再検討では、各学科にて 3 つのポリシーの見直し、明確化が図られた。その再検討の際には、76 周年（2018 年度）以降の 25 年を見据えた中・長期的方針「学園マスター・プラン」の策定が開始、学部学科の教育に関しても再検討が進められた。その方針、諸政策は 2018 年度開始時に提示することとなった（資料 1-2-1-6）。

（２）長所・特色

文学部の特色は、その創設理念から人文科学と社会科学の多様な学科専攻が総合する点である（資料 1-2-1-7）。各学科専攻は各々の学問領域の専門授業を展開すると同時に、学部開講科目として「知のフロンティア」を開講し、今日的な課題に対して領域を超えて学習することが可能になる（資料 1-2-1-1）。

（３）問題点

上の特色は同時に問題点にもなり得る。専門課程の学修を目指して入学するが、42 単位の「自由履修単位」（第 V 区分）があるために、多様な領域を表面的に学ぶ、安易な授業科目選択に陥ることも可能になる。この点は 2018 年度カリキュラムで是正される予定である。

（４）全体のまとめ

文学部では建学の精神に基づいた教育の展開がなされてきたが、何度かの改組の後、2018 年度の大規模改組において抜本的な方向性が図られることとなっている。

（5）根拠資料

- 1-2-1-1 授業要覧 2017 学部・学科編 文学部
- 1-2-1-2 東海大学オフィシャルサイト 文学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、
3つのポリシー
http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/diploma_policy.html
- 1-2-1-3 東海大学学則 別表 1
- 1-2-1-4 東海大学 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2017（大学案内）
- 1-2-1-5 学科案内
- 1-2-1-6 文学部主任教授会（2015年度）第1回議事録・第3回議事録（抜粋）
- 1-2-1-7 東海大学文学部パンフレット

2017年度 政治経済学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

大学では、東海大学学則第1条において、「人道に根ざした深い教養をもつ有能な人物を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする」と理念、目的を明確化している（資料1-2-3-1）。政治経済学部では、これを前提として、東海大学学則別表において、教育研究上の目的および養成する人材像を定めている（資料1-2-3-2 p.19）。

政治経済学部は、政治学・経済学・経営学の3分野を統合する研究・教育のキーワードとして政府・市場・組織を掲げ、この3分野に関する知識を豊富にし、分析方法を洗練させて、さらにこの3分野を有機的に連携させていく中で現代社会のダイナミズムを解明することを志向する。この教育・研究理念の下、我が国および国際社会の一層の発展と向上に寄与しうる「冷静な頭脳と温かい心」に立脚し「社会力」を持った人材を養成することを教育目標としている。本学部では社会力を、一人の社会人として社会に適応できるだけでなく、さらに進んで新しい社会を創生する力や精神にとらえている。これにもとづき、各学科においても、教育研究上の目的および育成する人材像を以下のとおり定めている。

（政治学科）政治学科は、現代文明についての深い歴史的、思想的認識に立って、新しい社会科学の一分野としての科学的な政治学の確立を目指し、地方の草の根から全世界におよぶ政治のダイナミズムを総合的に解明することを志向している。この教育研究理念の下、学生の目的意識を育みながら、政治、地方行政、国際政治についての幅広い知識を持ち、様々な現代の政治課題を多面的に検討して政策提言できる人材を養成することを教育目標としている。

（経済学科）経済学科は、グローバル化・複雑化し、かつ目まぐるしく多方向に素早く変化する現代の経済現象の基になっている根本的な原理とは何かを理論的及び実証的に解明することを志向している。この教育・研究理念の下、社会で求められる状況判断と意思決定の能力と密接に関係する、経済現象のしくみや因果関係を理論的に解明できる力、経済現象について資料を集め科学的に分析できる力、経済問題を多面的に検討して政策提言できる力を備えた人材を養成することを教育目標としている。

（経営学科）経営学科は、現代を「組織革命の時代」ととらえ、この枠組みの中で、組織内および組織外とにかかわる諸活動を組織の形態・目的・組織をとりまく外部環境などに関連させて、経営に関わる諸問題を解明することを志向している。そのため、経営学

が伝統的に対象としていた営利を目的とする企業組織のみならず、NPO・NGOと称される非営利組織までも対象とする。この教育・研究理念の下、経営理論と実践的能力を身につけ、これを実社会で十分生かしていけるような能力を備えた人材を養成することを教育目標としている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

学部学科の理念、目的については、前述の通り、教育研究上の目的および養成する人材像として東海大学学則別表に定めている（資料 1-2-3-2 p.19）。また、授業要覧（資料 1-2-3-3 pp. II-3-4、pp. III-3-4、pp. III-19-20、pp. III-33-34）に明記することによって学生に周知し、学則別表をオフィシャルサイト（資料 1-2-3-4）で閲覧可能にして受験生をはじめ広く社会に対しても公表している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

大学では5年間を単位として中期目標を策定しており、2017年度については2014～2018年度に含まれる。中期目標を前提として学部ではミッション・シェアリング・シートを策定し、教育、研究、社会連携、国際連携、管理・支援体制について年度ごとに実施計画を立て、年度終了時に自己評価を行ってPCDAサイクルを回している（資料 1-2-3-5）。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

特になし。

（4）全体のまとめ

点検項目①～③について、概ね問題がないと評価できる。

（5）根拠資料

- 1-2-3-1 東海大学学則
- 1-2-3-2 東海大学学則 別表 1
- 1-2-3-3 授業要覧 2017 学部・学科編 政治経済学部
- 1-2-3-4 東海大学学則 別表 1（東海大学オフィシャルサイト）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/index/pdf/gakusokubetu06.pdf>
- 1-2-3-5 2017 年度ミッション・シェアリング・シート政治経済学部

2017年度 法学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

法学部の人材育成その他の教育研究上の目的は、次のように設定されている。

「法学部法律学科の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、法学的な素養と能力を生かして自分自身の人間的な成長と発展を遂げるとともに、その活動を通して自分が所属する団体・企業、地域社会の発展、ひいては日本及び国際社会の発展に寄与しうる人材を育成することである。具体的には、法学的素養及びリーガルマインドに基づいた提案や問題の処理ができる人材、及び、人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代の社会で責任をもって活動できる自立した人材を養成することである。」
(資料1-2-4-1 学則第1条、1-2-4-2 学則第1条の2別表1)

これは、本文にあるとおり建学の精神及びこれを具現化した“4つの力”を踏まえたものであり、本学の目的（「人道に根ざした深い教養をもつ有能な人物を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。」(資料1-2-4-1 学則第1条)を法学部の学術分野に即して展開したものである。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

大学の目的は学則第1条(資料1-2-4-1)に、法学部の目的は学則第1条の2別表1(資料1-2-4-2)に規定されている。学則は、大学の公式ウェブサイトに掲載され、学内外に広く公表されている。法学部の目的は、また、冊子体の『授業要覧』(資料1-2-4-3)に掲載され、教職員及び学生に周知されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点**○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定**

東海大学中期目標（2014年度－2018年度）に即して学部としての達成目標及び各年度の実施計画を策定し、毎年度自己評価を行って次年度の計画を修正することとしている（資料1-2-4-4）。ただし、現在設定している達成目標は、上記法学部の教育研究上の目的の全体をカバーするものでなく、したがって、各年度の実施計画も限定的である。また、PDCAサイクルが回らないなど、現状では施策の設定に改善の必要がある。

（２）長所・特色

特になし。

（３）問題点

大学の中期目標に即して学部としての達成目標及び各年度の実施計画を設定しているが、当該達成目標・実施計画は、限定的であり、PDCAサイクルがうまく回らないなどの問題がある（資料1-2-4-4）。まずは、目標・計画の策定に教員全員が参画し、目的を共有する、そのため教授会の活用など効果的な方策を採る必要があると認識している。

（４）全体のまとめ

理念・目的に関しては、大学の理念・目的を踏まえ法学部の人材育成その他の教育研究上の目的が設定されており、学則に規定し、ウェブサイト等を通じて、教職員及び学生に周知するとともに社会に対し公表し、また、目的を実現していくため大学の中期計画に即し学部の達成目標及び実施計画を立てるなど、概ね基準に適合している。

しかし、法学部の目的の実現に向けた計画については、達成目標・実施計画が教育研究上の目的の全体をカバーしない等の問題があるため、評価し改善を図る手順（責任主体、検討体制、決定手続き、意識共有など）を整備して実行することが課題である。

（５）根拠資料

1-2-4-1 東海大学学則第1条

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>

1-2-4-2 東海大学学則第1条の2 別表1（法学部の項）

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/index/pdf/gakusokubetu06.pdf>

1-2-4-3 授業要覧 2017 学部学科編 法学部 p. II-3

1-2-4-4 ミッション・シェアリング・シート 2017 法学部

2017年度 教養学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

教養学部の教育研究上の目的は、東海大学の「建学の精神」（資料 1-2-5-1）及びそれらを具現化した「4つの力」（資料 1-2-5-2）を踏まえ、学科・課程における専門性を基礎として、自らの社会的役割を自覚し、国際性と独創性、創造性を有した人材を、学際的かつ実践的な教育を通して養成することである。各学科課程においても、教育研究上の目的および育成する人材像を以下のとおり定めている。

人間環境学科では、本学・本学部の教育目的に沿って、人文、社会、自然科学を含めた総合的な視点から、固定観念にとらわれない「自由な発想による新しい価値観と真の豊かさの追求」の精神を貫き、実社会に対応した「成熟した共生社会構築」の実現を目指し、グローバルな視点をもって「地域」の場から実践的活動ができる人材を養成することを教育研究上の目的としている。

人間環境学科は自然環境課程と社会環境課程の2課程で構成されており、自然環境課程では上述の目標に沿って、自然環境を保全しつつ、人類が豊かな生活を営める自然共生社会への転換を目指し、克服しなければならない諸問題を自然科学の視点を中心にしながら、関連する人文・社会科学的な視点を加えた広い視野で、自ら考え行動できるような人材を養成することとしている。

社会環境課程では、我々が直面する社会経済活動を「環境」「福祉」「ビジネス」の領域に分け、異なった角度から分析し、それらをトータルに把握することができる人材を養成することとしている。

芸術学科では、本学・本学部の教育目的に沿って、実践的な芸術教育の実施により、多様化する現代社会で求められる、創造力と応用力および総合的な判断力・行動力を持った視野の広い人材を養成することを教育研究上の目的としている。

芸術学科は音楽学課程、美術学課程、デザイン学課程の3課程で構成されており、音楽学課程では上述の目標に沿って、総合的視野に立った音楽教育の実施により、音楽学、音楽実技、音楽応用分野にかかわる音楽専門能力および総合的な判断力・行動力を持った視野の広い人材を養成することとしている。

美術学課程では、実践的な美術教育の実施により、多様化する現代社会で求められる美的感性とそれを踏まえた上での創造力・応用力・行動力を持った視野の広い人材を養成することとしている。

デザイン学課程では、本学・本学部・本学科の教育目的に沿って、学際的かつ実践的なデザイン教育の実施によりシティズンシップ（市民性）を養成するとともに、個々の適性に合わせたデザイン専門能力および、プランニング・クリエイティブ・プロデュース・マネジメント・プレゼンテーションといった創造的な場面において求められる判断力・行動力を持った視野の広い人材を養成することと定めている。

国際学科では、本学・本学部の教育目的に沿って、グローバル化の加速する世界で必要な「地球規模の課題を理解する知識と思考力」、「言語・文化を超えて協働できるコミュニケーション力」、「高い倫理観をもって積極的に行動する力」を持った人材を養成することを教育研究上の目的としている（資料 1-2-5-3 東海大学学則 別表 1）。

上述した内容から、教養学部では東海大学の理念・目的を踏まえ、教育研究上の目的を適切に設定しているものと評価できる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本学部の理念、目的については、「教育研究上の目的及び養成する人材像」として、「東海大学学則 別表 2」（資料 1-2-5-3）や「授業要覧」（資料 1-2-5-4）、「大学オフィシャルサイト」（資料 1-2-5-5）で周知している他、学部作成サイト（資料 1-2-5-6）においても、その内容を噛み砕いた形で社会に向け公開している。

以上のことから、教養学部の理念・目的は、適切に周知、公表されていると判断できる。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

2013 年度に策定された「東海大学第Ⅱ期中期目標」（資料 1-2-5-7）により、理念・目的・養成すべき人材像、並びに 3 つのポリシーが明確化され、授業要覧（資料 1-2-5-4）、大学オフィシャルサイト（資料 1-2-5-5）上などで公開されている。2018 年度からは法人の「学園マスタープラン」のもと定められる「第Ⅲ期中期目標（中期計画）」に移行する予定である。

（2）長所・特色

人間環境学科での教育の特色として、自然環境課程と社会環境課程に共通の人間環境領域を設置し、人間環境にかかわる諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育成している。また、自ら問題を見だし解決する力をつけるため、実験と実習を重視し実体験に根ざした教育を行っている。具体的には、本学所有の海洋調査研修船望星丸による水質調査、農業体験などのフィールド学習型体験授業である「環境体験演習」や、沖縄県西表島の環境保全、北海道の冬と開拓の歴史、くらし、地域の環境保全をテーマとした「環境保全演習」などを実施している（資料 1-2-5-8）。

また社会環境課程では、社会で複雑に絡み合う環境・福祉・ビジネス問題の関係性を探り、新たな発想で解決の糸口を見つけるための教育・研究を行っている（資料 1-2-5-9）。

実践的な社会動向を重視し、国内外でのフィールド調査等を通して社会活動を広い視野で検討し、基礎教育（入門ゼミ）の後、環境、福祉、ビジネスの3つのコース毎に実社会に応じたカリキュラム（資料 1-2-5-10）を作成している。各コースで教育研究に応じて国内外でフィールド調査を実施し学生への理解を高め、社会環境課程ホームページで重要な関連社会動向についてトピックとして紹介し教育支援を行っている（資料 1-2-5-11）。

音楽学課程では実践的な芸術教育を標榜し、創造力と応用力および総合的な判断力・行動力を持った視野の広い人材養成を明示する事で、音楽の応用分野も含んだ、音楽専門能力および総合的な教養を備えた人材を排出している。2017年度の音楽学課程卒業生の進路が多彩であることもその現れで、一般企業、医療・福祉、学校関係等が同程度の割合を占めている。また、演奏系および理論系の学生が、国立大学を含む大学院へ進学している（資料 1-2-5-12）。

2017年度の美術学課程卒業生の進路は、美術関係のみならず多様な職種へ進出している。これは、創造力・応用力・行動力を持った人材を養成するという目的が、多様化する現代社会に対応し、この就職状況につながったと言える（資料 1-2-5-13）。

国際学科の特色としては、世界規模で進行する諸活動（グローバル化）における複雑な問題を多角的に捉え、学際的なアプローチで取り組む学習スタイルがあげられる。学修体系は「国際政治・経済」・「国際開発・文化」・「地域研究」の3つの領域から構成され、幅広い教養と専門知識をバランスよく学習し、コミュニケーション能力を育み課題解決能力へと展開させる。初年次の基礎ゼミナールは少人数できめ細く大学での学び方を身に付け、また英語カリキュラムは集中的に学ぶように設計され、TOEIC も全員が受験する（資料 1-2-5-14）。2年次では「国際学」の基礎や英語や第二外国語でのコミュニケーション能力を高め、海外留学に挑戦する学生も多い。3年次より「専門ゼミナール」に所属し、専門的知識を深め、調査や考察に取り組む。英語による授業のみを受講して卒業することも可能であり、全ての科目でアクティブ・ラーニング型の授業を行っている（資料 1-2-5-15）。

国際学科では「幅広い教養」、「使える外国語力」、「異文化対応力」、「コミュニケーション力」、「行動力」を身に付けるため、実践的なフィールドワーク（留学、海外研修、ボランティア、インターンシップ等）の機会が随所に設計され、柔軟性と適応力を持つグローバル社会で活躍できる人間形成を重視している。

（３）問題点

人間環境学科自然環境課程：学生の学生意欲を強め、問題発見・解決能力の向上を図るためには、フィールド学習型体験授業における実習内容と講義内容の連携を一層強める必要がある。この点についての不断の改善が必要である。

社会環境課程で対象としている学術分野は、国際的に変動が大きい分野であり、その動向に応じて教育・研究内容を再検討していく必要がある。2015年に国連で採択され、2016年から発効しているSDGs（Sustainable Development Goals）に関しては、環境、福祉問題に対する国際的な解決目標が示され、企業経営においても、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）が高い注目を浴びている。講義内容や、カリキュラム改定時にこの動向を適切に取り入れていく必要がある。

音楽学課程における総合的視野に立った音楽教育の実施は、将来教職に就こうとする者にとっては、まさに理想的なカリキュラムである。しかし、近年様々な理由から、その分野に対する学生の意欲が低下気味であることから、その特徴への再認識と積極的な取り組みを促す必要がある。

美術学課程では教職課程を置いているにも関わらず、教員志望学生の意欲の低下が見られる。今後、実践的な取り組みを行う必要がある。

国際学科における英語教育に関しては、1年次と2年次での英語科目のつながりをどう確保するかという問題がある。1年次・2年次とも国際教育センターのネイティブ教員と日本人教員、また2年次では国際学科の教員が協働してクラスを担当しコンテンツベースのプログラムで英語力の強化を図っている。習熟度別のクラス編成だが、人前での発表やスピーチが不得手な学生が同じクラスに集中する傾向があり、限られた期間での外国語でのコミュニケーション力を引き上げるためには、教員数やプログラムの改善等の課題が残っている。海外への関心を高めてもらうために「国際研修 A・B・C」を実施しているが、渡航費用面の課題がある。大学での学費とは別にかかる留学費用の工面は各家庭で容易なことではなく、毎年諦める学生が大勢いる。大学の人的資源が限られている現状があり、国内での語学や社会研修の方法も今後さらに検討・工夫する必要がある。

（４）全体のまとめ

上述した様に、本学部は東海大学の理念や目的を踏まえ、学部学科としての目的を適切に設定し、教職員や学生、社会一般に向け、学則等で適切に明示し公表しているものと評価できる。また将来を見据え、大学が定める中長期の目標を基本として、諸施策を設定している。

教育上の特色も数多く挙げることができ、学際的教育の成果として評価できる。また問題点として記述した部分に関しては、不断の検証によって解決可能である。

（５）根拠資料

1-2-5-1 建学の精神 <https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>

1-2-5-2 東海大学オフィシャルサイト 東海大学方リベラルアーツ（4つの力）
https://www.u-tokai.ac.jp/campus_life/education/system/education/

1-2-5-3 東海大学学則 別表1

- 1-2-5-4 授業要覧 2017 学部・学科編 教養学部
- 1-2-5-5 東海大学オフィシャルサイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/index2.html>
- 1-2-5-6 学部作成サイト <http://www.shc.u-tokai.ac.jp/>
- 1-2-5-7 東海大学第Ⅱ期中期目標
https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html
- 1-2-5-8 人間環境学科自然環境課程学科パンフレット
- 1-2-5-9 人間環境学科社会環境課程ホームページ
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/human_welfare_environment/
- 1-2-5-10 人間環境学科社会環境課程卒業単位数一覧カリキュラム
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/human_welfare_environment/curriculum/
- 1-2-5-11 社会環境課程ホームページ 今月のトピック
<http://www.shc.u-tokai.ac.jp/about/gakka/ningenkankyo/syakaikankyo/topix/index.html>
- 1-2-5-12 東海大学大学案内 2019 p. 72 2017 年度卒業生の主な就職先
- 1-2-5-13 東海大学大学案内 2019 p. 73 2017 年度卒業生の主な就職先
- 1-2-5-14 国際学科履修モデル
- 1-2-5-15 国際学科カリキュラムポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/international_studies/educationpolicy/

2017 年度 体育学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

体育学部では、大学の理念・目的を踏まえ、本学部及び5学科の「教育研究上の目的及び育成する人材像」を設定した（資料 1-2-6-1）。これらは東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-6-2）にも掲載されている。

東海大学学則第1条「本学は、人道に根ざした深い教養を持つ有能な人物を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする」（資料 1-2-6-3）という大学の理念・目的に対して、体育学部は体育・スポーツ科学からのアプローチによる具現化を目指す学部であり、その理念・目的には連関性があると判断できる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

体育学部の教育研究上の目的及び養成する人材像等については東海大学学則別表1（資料 1-2-6-1）、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-6-2）において公表されている。また、学部及び学科の教育目標、教育方針、特色などは授業要覧（資料 1-2-6-4 p. II-3～4）、東海大学ガイドブック 2017（資料 1-2-6-5 pp. 91-96）、各学科案内（資料 1-2-6-6）に掲出し、学内外への公表を行っている。また、2017 年度は体育学部創設 50 周年だったことから、128 ページに及ぶ東海大学体育学部 50 年史を編纂（資料 1-2-6-7）し、学内外への寄贈を行った（資料 1-2-6-8）。その他、スポーツ・レジャーマネジメント学科は、独自の学科パンフレットを継続して発刊している（資料 1-2-6-9）。さらに、教育実習視察校への配付資料として「東海大学体育学部ニュース」（資料 1-2-6-10）を作成し、学部の取り組みに関する周知を図っており、学部の目的等の学内に広く公表されていると判断できる。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

東海大学第Ⅱ期中期目標（資料 1-2-6-11）に基づき、体育学部では 2017 年度ミッション・シェアリング・シートを作成し、その目標達成に向けた取り組みを行った（資料 1-2-6-12）。中期目標として掲げられている 5 つの目標に対して、43 の実施計画を挙げて取り組んだ。2017 年度自己評価では、C 評価が散見されるものの、概ね S・A 評価という結果であった。大学の中期目標に基づき、学部では施策を設定し、取り組んでいるものと判断できる。

（２）長所・特色

体育学部では「東海大学体育学部体育・スポーツ関連資格のしおり」（資料 1-2-6-13）、「体育学部生のための就職応援ブック」（資料 1-2-6-14）、「教育実習［保健体育科］の手引き」（資料 1-2-6-15）を学部独自に刊行し、教職員・学生に対して、教育内容や取り組みの周知を図っている。

（３）問題点

2017 年度において大学第Ⅱ期中期目標が終了し、次年度（2018 年度）より第Ⅲ期中期目標が施行される。新たな中期目標を見据えた、本学部としての中・長期計画の諸施策の設定が課題である。

（４）全体のまとめ

学部及び学科が要請しようとする人材像や教育上の目的等は、公開・周知されている。また、大学の理念・目的に対して、学部や学科の特色を生かしたアプローチがなされており、両者の関連性が認められる。

また、大学の中期目標に応じた学部の取り組みを行っており、その目標も概ね達成されている。

（５）根拠資料

1-2-6-1 東海大学学則別表 1

1-2-6-2 東海大学オフィシャルサイト 体育学部教育研究上の目的及び養成する人材像、3 つのポリシー

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/physical_education/educationpolicy.html

1-2-6-3 東海大学学則

1-2-6-4 授業要覧 2017 学部・学科編 体育学部

1-2-6-5 東海大学ガイドブック 2017

- 1-2-6-6 2017 学科案内 体育学科、競技スポーツ学科、武道学科、生涯スポーツ学科、スポーツ・レジャーマネジメント学科
- 1-2-6-7 東海大学体育学部 50 年史
- 1-2-6-8 東海大学体育学部 50 年史 贈呈数
- 1-2-6-9 東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 Vol.10
- 1-2-6-10 東海大学体育学部ニュース
- 1-2-6-11 東海大学オフィシャルサイト 東海大学 中期目標 第Ⅱ期中期目標
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>
- 1-2-6-12 2017 年度ミッション・シェアリング・シート 体育学部
- 1-2-6-13 東海大学体育学部体育・スポーツ関連資格のしおり
- 1-2-6-14 体育学部生のための就職ガイドブック ACTIVE 2017
- 1-2-6-15 教育実習〔保健体育科〕の手引き

2017 年度 理学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

理学部の理念・目標は、大学の理念・目標を踏まえて策定されており、東海大学学則第1条の2の別表1（資料1-2-8-1）に、『理学部の理念は、建学の理念を踏まえ、広い視野と豊かな人間性をもち、自ら問題を提起して解決でき、社会から必要とされる人材を養成することである。そのため、自然科学の基礎を学び・研究するために基礎教育の充実を図ると共に、異なる学問分野や文化を理解し、幅広く探究する自由な精神を教授する。教育目標は、「専門性に対応できる基礎力」、「総合的な判断力」、「協力し合って問題に対処できる能力」をもち、全体としては自ら考え、集い、挑み、成し遂げる力をもった人材を育成する。』と明記されている。各学科（数学科、情報数理学科、物理学科、化学科）の理念・目標は、大学及び理学部の理念・目標を踏まえて策定されており、東海大学学則の別表1（資料1-2-8-1）に明記されている。これらの理念・目標が適切であったことは、50年間の卒業生の多くが社会で活躍している事実を見れば明らかである。（資料1-2-8-2）

理学部設立の理念は、「本学理工系の学問の基盤を支え、さらに、全学理工系の基礎教育を担当する本学独自のシステムを実現すること」であり、工学部・情報理工学部の理系基礎教育を理学部が担当する教育システムが実現されている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

理学部及び各学科の理念・目標は、東海大学学則第1条の2の別表1（資料1-2-8-1）に明示されており、本学オフィシャルサイト（資料1-2-8-3）により学内外へ公開されている。また、授業要覧（資料1-2-8-4 pp. II-3-4）や学部案内（資料1-2-8-5）にも掲載されており、前者は学生及び教職員に対して、後者は受験生に対して学部・学科の理念・目標を周知するために使用されている。それに加えて、学生に対しては、授業要覧（資料1-2-8-4）を用いて年度初めのガイダンスにおいて定期的に周知するとともに、1年次秋学

期に開講される「現代文明論 2」（資料 1-2-8-6）において説明を行っており、学生は少なくとも年 1 回は理学部及び自学科の理念・目標を目にしている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

理学部主任会において、年度ごとの自己点検・評価報告書の作成の際、社会情勢などを勘案し理学部及び各学科の理念・目的の適切性について検討を行っている。今のところ修正の必要性を示唆するデータは得られていない。

（２）長所・特色

理学部及び各学科の理念・目標を「教育研究上の目的及び養成する人材像」として明確にし、学生及び教職員に周知することで、両者が同一の目標とする人材像を目指して授業に取り組んでいる。

（３）問題点

教職員への周知は、理念・目標が記載された授業要覧を配布することだけで行っているが、授業要覧を読まない可能性もあり得る。改善策として理学部教授会もしくは各学科の教室会議において周知を図る。

（４）全体のまとめ

理学部及び各学科の理念・目標は、適切に設定され学則別表 1（資料 1-2-8-1）に明記されており、本学オフィシャルサイト（資料 1-2-8-3）上で学内外に公開されている。適切性の検証も定期的に行っており、同基準をおおむね充足している。

（５）根拠資料

- 1-2-8-1 東海大学学則 別表 1
- 1-2-8-2 東海大学理学部 50 周年史 抜粋
- 1-2-8-3 東海大学オフィシャルサイト 東海大学学則 別表 1
<http://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>
- 1-2-8-4 授業要覧 2017 学部・学科編 理学部
- 1-2-8-5 東海大学理学部 学部案内
- 1-2-8-6 現代文明論 2 概要（シラバスサイトより）

2017 年度 情報理工学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

情報理工学部では「建学の精神」（資料 1-2-9-1）・「本学のミッション」（資料 1-2-9-2）に基づき、新たな社会的価値を創造することを使命として、教育研究上の目的及び養成する人材像を掲げて研究教育を行っている。それらは教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー（資料 1-2-9-3）に基づいて、本学部のホームページ（資料 1-2-9-4）ならびに授業要覧（資料 1-2-9-5 pp. II-3～4）に明記されている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

情報理工学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、情報に関する幅広い基礎知識と高度な専門知識と技術を備え、現代の情報社会が抱える多様な課題を正しく理解し、それらの課題に対する解決策を的確に導き出せる創造力及び実践力をもった人材を育成することである。このことは東海大学大学案内 2017（資料 1-2-9-1）、本学ホームページ（資料 1-2-9-2）に基づく形で、本学部ホームページ（資料 1-2-9-4）、ならびに授業要覧（資料 1-2-9-5 pp. II-3～4）に明示・公表している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

学部では大学全体の施策に対して、全所属教員が積極的に取り組んでいる。この取り組み結果は第Ⅰ期中期目標総括報告書・自己点検報告書として提出済である（資料 1-2-9-6

第1章 理念・目的)。また、第Ⅱ期中期目標では達成目標・実施計画などをミッション・シェアリング・シートに策定し、教育・研究理念の具現化活動を検証している（資料1-2-9-7）。

（2）長所・特色

2013年度に第Ⅱ期中期目標（今後5年間の目標設定）が策定され、「教育」「研究」「社会連携」「国際連携」「管理・支援体制」の重点項目が示された。この目標策定により学部においても教育研究上の目的及び養成する人材像が明確になった（資料1-2-9-4）。

（3）問題点

機械学習（人工知能）の社会基盤化が急速に進みつつある。このような状況を踏まえて、スピード感のある学部運営を心がける必要がある。具体的には教育・研究における機械学習関連事項の適時的な取り込み、それらの広報への反映などが学部運営上必要である。

（4）全体のまとめ

本学部の理念・目的については概ね問題がないように思われるが、上述のように時代とともに価値観や概念が大きく変わる情報分野を担う学部であるため、本学の建学の精神、理念・目的に基づき教育・研究目標を常に見直ししながら、一層の充実を図る必要がある。

（5）根拠資料

1-2-9-1 東海大学オフィシャルサイト（建学の精神）

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>

1-2-9-2 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2017年度）

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html

1-2-9-3 東海大学オフィシャルサイト

教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>

1-2-9-4 情報理工学部ホームページ

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html

1-2-9-5 授業要覧 2017 学部・学科編 情報理工学部

1-2-9-6 東海大学教育研究年報 2016

http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual_report/2016/

1-2-9-7 2016年度情報理工学部ミッション・シェアリング・シート

2017年度 工学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

東海大学オフィシャルサイト：大学案内（資料1-2-10-1）ならびに東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2018年度）（資料1-2-10-2）に示されている通り、創立者松前重義博士が掲げた東海大学の理念である「建学の精神」ならびにこれを具現化した「東海大学のミッション」を踏まえて、学部学科設立の趣旨や東海大学学則（資料1-2-10-3）第1条で定められた「教育研究上の目的及び養成する人材像」をもとに「工学部の教育研究上の目的、養成する人材像」を授業要覧2017 学部・学科編 工学部（資料1-2-10-4 p.Ⅱ-4）に掲げ、これを受けて学科専攻が独自の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を適切に設定している。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

学校法人東海大学全体の理念である「建学の精神」をはじめ東海大学学則（資料1-2-10-3）は前述の通り東海大学オフィシャルサイト：大学案内（資料1-2-10-1）を通じて、さらに「工学部の教育研究上の目的、養成する人材像」ならびに工学部各学科専攻の「教育研究上の目的及び養成する人材像」は前述の通り、授業要覧2017 学部・学科編 工学部（資料1-2-10-4）および東海大学オフィシャルサイト：工学部（資料1-2-10-5）、さらに東海大学工学部ホームページ（資料1-2-10-6）を通じて有効に周知・公表している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点**○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定**

創立者松前重義博士が掲げた本学の「建学の精神」に代表される理念・目的は不変である。しかし、時代や社会環境の変化に応じて工学部の理念・目的の適切性をはじめ教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の見直しを図っている。現在は東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2018年度）（資料1-2-10-2）の途上にあり、工学部が設定したミッション・シェアリング・シート（資料1-2-10-7）に配慮して諸活動を継続実施している。

将来を見据えた計画の一例として、2018年度より実施する新カリキュラムの編成にあたり工学部長の下、主任会ならびに教務委員会が主体となり、学科専攻におけるカリキュラム編成や前述した方針との整合性を検証しながら、検討を重ねている。

（２）長所・特色

これまで述べた大学ならびに学部の理念・目的が適切であったことは、新制東海大学の歴史の中で「工学部が個人の適性にあわせ・個性を伸長する教育を行い、社会的に有為な人材を育て、先駆者・実務者として社会へ輩出してきた」という事実として、様々な経済誌に紹介されている。この「個人の適性にあわせ・個性を伸長する」教育は工学部の根幹であり、新しいカリキュラム編成時にはその根幹を崩さないよう、丁寧に注意しながらカリキュラム編成にあたっている。

また、旧来よりタイ王国モンクット王ラカバン工科大学との学術交流協定により、数多くの教員交流と共に教育・研究交流が行われている実績がある（資料1-2-10-8）。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

これまで述べた通り、東海大学オフィシャルサイトならびに東海大学学則をもとに明示された全学的な教育研究上の目的及び養成する人材像に基づき、工学部の理念と目的、工学部ならびに工学部各学科専攻における「教育研究上の目的及び養成する人材像」、さらに「入学者受入れ（アドミッション・ポリシー）」・「教育課程編成（カリキュラム・ポリシー）」・「学位授与（ディプロマ・ポリシー）」の3方針を適切に設定・明確化している。今後もこれら方針の検討と見直しを続け、有効に周知・公開していく。

（５）根拠資料

1-2-10-1 東海大学オフィシャルサイト：大学案内

<http://www.u-tokai.ac.jp/about/>

1-2-10-2 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2018年度）

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html

1-2-10-3 東海大学学則

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>

- 1-2-10-4 授業要覧 2017 学部・学科編 工学部
- 1-2-10-5 東海大学オフィシャルサイト：工学部
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/>
- 1-2-10-6 東海大学工学部ホームページ <http://www.tec.u-tokai.ac.jp/>
- 1-2-10-7 2017 年度ミッション・シェアリング・シート（工学部）
- 1-2-10-8 キングモンクットラカバン工科大学（KMITL）工学部オフィシャルサイト
<http://eneng.kmitl.ac.th/kmitl-engineering-tokai-visit/>

2017年度 観光学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

観光学部の人材育成その他の教育研究上の目的は、次のように設定されている。

「観光学部観光学科の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、文化・社会・自然の多様性ならびに観光の諸現象に関する知識と理解、問題発見解決力・創造力、日本語や英語等多言語でのプレゼンテーション・コミュニケーション力をはじめとする汎用的な能力と技能、協調性を保ちつつ独自性を発揮できる自己管理能力等、学士の学位をもって社会で生きる基礎的な力を有し、観光・サービス産業やそれらの研究分野の発展に貢献することができる独創的人材を養成することである。」

（資料 学則第1条の2別表1 1-2-11-1）

これは、本文にあるとおり建学の精神及びこれを具現化した“4つの力”を踏まえたものであり、本学の目的（「人道に根ざした深い教養をもつ有能な人物を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。」（資料 学則第1条 1-2-11-2）を観光学部の学術分野に即して展開したものである。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

観光学部の教育研究上の目的及び養成する人材像は学則第1条の2別表1（資料 1-2-11-1）に規定されている。学則別表1は、大学の公式サイトに掲載され、学内外に広く公表されている。また観光学部の目的・人材像は、3つのポリシーとともに大学の公式サイト『観光学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー』（資料 1-2-11-3）に掲載され、教職員及び学生に周知されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

東海大学中期目標（2014年度－2018年度）に即して学部としての達成目標及び各年度の実施計画を策定し、毎年度自己評価を行って次年度の計画を修正することとしている（資料1-2-11-4）。

（２）長所・特色

観光に関連する実習・研修科目、インターンシップを含めたキャリア開発科目など、観光事業を実体験する科目を充実させており、これを活用することで、学部の人材育成目的「観光・サービス産業やそれらの研究分野に貢献できる人材」に対し、観光産業等への就業実績など一定の成果を残している。

（３）問題点

現状では特にないが今後とも諸施策の自己点検を行い必要に応じて見直しを図っていく。

（４）全体のまとめ

理念・目的に関しては、大学の理念・目的を踏まえ観光学部の人材育成その他の教育研究上の目的が設定されており、学則に規定し、ウェブサイト等を通じて、教職員及び学生に周知するとともに社会に対し公表し、また、目的を実現していくため大学の中期計画に即し学部の達成目標及び実施計画を立てるなど、概ね基準に適合している。

今後ともPDCAサイクルを介して、必要に応じて諸施策の見直しを図っていく。

（５）根拠資料

1-2-11-1 東海大学学則第1条の2 別表1（観光学部の項）

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/index/pdf/gakusokubetu06.pdf>

1-2-11-2 東海大学学則第1条

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>

1-2-11-3 東海大学公式サイト『観光学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー』

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html>

1-2-11-4 ミッション・シェアリング・シート 2017 観光学部

2017 年度 情報通信学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

東海大学全体の理念である「建学の精神」（資料 1-2-12-1）及び大学の全学部に通ずる教育研究上の目的を定めた学則（資料 1-2-12-2）に則り、本学部の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を東海大学学則別表 1（資料 1-2-12-3）に以下のように設定している。

「情報通信学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した 4 つの力を踏まえ、知育に偏らず心身ともに健康で高度情報化社会の発展と創造に寄与できる人材、すなわち、情報通信に関する基礎知識と基礎技術を身に付け、さらに、それらを社会で十分に応用できる柔軟な思考能力を備え、幅広い知識、国際性豊かな視野、英語コミュニケーション能力を有すると共に、情報通信技術者としての高度な使命感、倫理観をもった人材を養成することである。」

また、この理念・目的、養成する人材像とともにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー（3 つのポリシー）を掲げ、それらの下で各種活動を行っている。

このことから、本学部の理念・目的及び養成する人材像は適切である。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

東海大学学則別表 1（資料 1-2-12-3）、情報通信学部授業要覧（資料 1-2-12-4 pp. II-3～4）、東海大学ウェブサイト・情報通信学部（資料 1-2-12-5）及び学部パンフレット（資料 1-2-12-6）などに、建学の精神、理念・目的、教育方針と教育目標について掲出して学内外へ公開している。

上記以外にも学生に対しては、新入生ガイダンス、新入生研修会、「現代文明論 1」（資料 1-2-12-7）及び「現代文明論 2」（資料 1-2-12-8）などで周知を行なっている。また、

教職員については、毎年度、上記の授業要覧や学部パンフレットを配布し周知している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

東海大学第Ⅱ期中期目標（2014 年度～2018 年度）に従い、学部の理念、目的、養成する人材像を実現するための達成目標と実施計画をミッションシェアリングシート（資料 1-2-12-9）に設定している。中期目標の第四階層で示された学部に関連する 48 の細部実施事項について、28 の達成目標（第五階層）を定め、取り組み結果について評価している。

（２）長所・特色

本学部の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を実現するために、特に「外国語教育の強化」「研究活動の活性化」「地域社会との連携強化」「教育研究環境の充実」に取り組んでいる。「外国語教育の強化」に関しては、TOEIC 受験率及び成績の向上、学部独自の英語選択科目の導入による能力向上に効果が上がっている。「研究活動の活性化」に関しては、科研費の申請者、採択者に研究費の傾斜配算を行い、申請率、採択率の向上に効果が上がっている（資料 1-2-12-10）。「地域社会との連携強化」に関しては、港区との地域活性化に貢献するための研究や放課後児童の居場所・遊び場提供による地域課題の解決等を行っている。「教育研究環境の充実」に関しては、2017 年度に情報メディア学科、組込みソフトウェア工学科、通信ネットワーク工学科の特殊実験室のリニューアル工事を実施した。これらの取り組みについてはミッションシェアリングシート（資料 1-2-12-9）に記載、評価している。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

本学部では、理念・目的及び養成する人材像を適切に定めている（資料 1-2-12-3）。また、それらを刊行物やウェブサイトによって学内外に周知している（資料 1-2-12-4、5、6）。さらにこれらを実現するための達成目標と実施計画をミッションシェアリングシート（資料 1-2-12-9）に設定し、これらの取り組み結果については学部の評価委員会（資料 1-2-12-11）にて評価を行っている。以上より、理念・目的を充足していると判断する。また、これらの取り組みは継続して実施していく。

（５）根拠資料

- 1-2-12-1 建学の精神
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>
- 1-2-12-2 東海大学学則
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>
- 1-2-12-3 別表1 教育研究上の目的及び養成する人材像
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/index/pdf/gakusokubetu06.pdf>
- 1-2-12-4 情報通信学部 授業要覧 2017 学部・学科編
- 1-2-12-5 情報通信学部
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_and_telecommu/index.html
- 1-2-12-6 学部パンフレット
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-3-107&FL=0
- 1-2-12-7 授業内容・計画（概要）の情報：現代文明論1
http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/risyuu_syllabus/2013120001.html
- 1-2-12-8 授業内容・計画（概要）の情報：現代文明論2
http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/risyuu_syllabus/2013120002.html
- 1-2-12-9 情報通信学部 ミッションシェアリングシート
- 1-2-12-10 VISTA 第288号 p.6（2017年10月）
- 1-2-12-11 2017年度情報通信学研究科・情報通信学部 各種委員一覧

2017 年度 海洋学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

海洋学部では、学部の理念・目的を、調和・有限型海洋観に基づき、海洋の総合的理解と平和的利用による豊かな社会建設を理念として、地球と人類の抱える諸問題に対して、海洋を通した深い理解を図り、さらに具体的な問題に対する解決の方策を学際的知識と専門知識や技術を主体的かつ複眼的に活用して導き出せる、発想力と創造力を培うことを目標として「地球市民としてもつべき人生観、歴史観、世界観を伴った人材の育成を基盤とし、人間・社会・環境の相互影響を正しく理解し、高い倫理と責任感をもって調和のとれた持続可能な文明社会の実現に貢献できる人間性豊かな社会人及び職業人の育成を目標とすることと定め、明確にしている（資料 1-2-13-1）。また、それらは「学部の意義」、「学部の理念と教育方針」、「学部の教育目標」、「学部が要請しようとする人材」として『海洋学部授業要覧』（資料 1-2-13-2 p. 34）に記載している。

海洋学部の理念・目的である「海洋の総合的かつ平和的開発と利用による豊かな社会建設」が適切であったことは、学部創設 53 年の歴史の中で、本学部が社会的に有為な人材を育て、海洋関連領域における先駆者を輩出してきたことから示されている（資料 1-2-13-3）。

海洋学部では、定期的に行われる学部長、副学部長、学部長補佐、学科主任を中心とした海洋学部主任教授会（資料 1-2-13-4）において、学部の理念・目的の適切性について検証をおこなっている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

海洋学部の理念・目的・教育目標については、海洋学部授業要覧（資料 1-2-13-2）、学部案内（資料 1-2-13-5）、海洋学部ホームページ（資料 1-2-13-6）等に掲出して、教職員、学生、社会に対して公開し、周知を図っている。

特に学生に対しては、学部の理念・目的を具現化した授業科目「現代文明論 2」、さらに「海洋学概論」、「海洋実習」など必修の学部共通科目を設定し、学部の理念・目的について周知を図っている（資料 1-2-13-2）。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

明示された全学的な教育研究上の目的及び養成する人材像に基づき、海洋学部の「教育研究上の目的及び養成する人材像」に基づく教育を体系的・組織的に実施するため、2018年度に予定しているカリキュラム改訂に合わせて、2016年度から2017年度まで継続して、大学運営本部、教学部、入学センターと海洋学部が連携を図り、東海大学教育審議会のもと3つのポリシーとカリキュラム内容について点検・見直しを行い教育の質確保を具現化した。（資料 1-2-13-7）

（2）長所・特色

2014年度に今後5年間の目標設定（東海大学第Ⅱ期中期目標（資料 1-2-13-8））が策定されたことにより、海洋学部の教育研究上の目的及び養成する人材像が明示されたこと。また、海洋学部が立地する清水校舎は、海洋学部1学部であることから、職員に対しても学部の理念・目的を周知するに適した環境であり、新年及び新学期の2回、学部長講話によって学部の理念と目的が周知されていること。

（3）問題点

創設者の思想に基づく海洋学部の理念及び目的と、受験生の思考に若干の差異が見られるようになって来ている。すでに努力をしているが、海洋学部の理念と目的の重要性を広報戦略によってさらに周知する必要がある。

（4）全体のまとめ

海洋学部の理念と目的は明確で有り、それらについて一般社会、学生、教職員への周知も行っている。2018年度カリキュラムに対応できるように2017年度は、2016年度から引き続き3つのポリシーとカリキュラムの再整備を行ってきた。

（5）根拠資料

- 1-2-13-1 東海大学学則別表
- 1-2-13-2 授業要覧 2017 学部学科編 海洋学部
- 1-2-13-3 東海大学海洋学部 50 年史
- 1-2-13-4 海洋学部主任教授会内規
- 1-2-13-5 海洋学部 学部案内

1-2-13-6 海洋学部ホームページ

<http://sdb01.scc.u-tokai.ac.jp/about/index.html>

1-2-13-7 授業要覧 2018 学部学科編 海洋学部

1-2-13-8 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2017年度）

2017 年度 医学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

医学部では、大学の建学の精神及び教育目的に沿って、「科学とヒューマンイズムの融和」の精神に基づいた『良医』を育成するとともに、『生命科学研究』を實踐できる人材の養成を目的としている。医学部が育成する『良医』とは、幅広い視野に立ち、広範な知識・確かな技能・豊かな創造性を持つとともに、社会的役割を認識し、人に対する尊厳を忘れない人間性豊かな医師であり、『生命科学研究』とは、生命倫理に対する高い見識に裏付けられた、創造的かつ先進的な研究を指している。本方針については、本学オフィシャルサイトに明示されている。（資料 1-2-14-1）

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

医学部の教育目標は、学生に配付する「授業要覧」（資料 1-2-14-2 p.29）、「CLINICAL CLERKSHIP HANDBOOK」（資料 1-2-14-3）及び本学オフィシャルサイトに記載している。教員に対しては、各種会議体及び本学オフィシャルサイトや印刷媒体（「授業要覧」「CLINICAL CLERKSHIP HANDBOOK」）を通じて周知している。社会に対しては、本学オフィシャルサイト及び「学部学科案内（CHALLENGE）」（資料 1-2-14-4）を通じて公表している。学生に対しては、毎年、年度初めのガイダンスで各学年の指導教員及び科目責任者から説明しており、不明な点や詳細など、学生からの質問については、指導教員、科目責任者、教学課が個別に対応している。

また、2016 年度新カリキュラムからは、科目毎のパフォーマンスレベル（学修到達度）を「授業要覧」、「学部学科案内（CHALLENGE）」に追加することで、大学構成員の理解をさらに深めている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、

大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

医学部では、『良医』を育成するため、2016 年度にカリキュラムを全面的に改定するとともに、アウトカム基盤型カリキュラムを導入し、卒業時に身につけている能力を明確にしている。（資料 1-2-14-2 pp.44-49）また、『世界医学教育連盟』が定める国際基準に適合した医学教育を行うため、国際基準に準拠したガイドライン（資料 1-2-14-5）に沿ってカリキュラムが作成されている。

さらに、医学教育の質を国際的見地から保証するため、『世界医学教育連盟』の認定機関である『日本医学教育評価機構』による認証評価を、2021 年度に受審する予定である。また、本機構の評価基準を用いて自己点検・評価を行うことにより、国際基準での継続的な医学部内部質保証を行うとともに、医学教育の更なる発展を計画している。

（２）長所・特色

卒業時に身につけている能力を明確に示すことで、医学部が目標としている『良医』を具体的に説明している。

国際基準に適合したカリキュラムにより、国際的に活躍できる学生の育成を行うとともに、外部機関による分野別評価を受審することで、継続的な内部質保証を行っている。

（３）問題点

2016 年度から導入した新カリキュラムにおいて、科目の到達目標を明確化したが、学年を跨いだ科目間での縦断的な役割分担及び適切な到達目標の検討がなされていない。

2021 年受審予定の認証評価について、学部全体で取組む必要があるが、その意識が大学構成員全てに浸透されていない。

（４）全体のまとめ

医学部は、大学の建学の精神及び教育目的に沿った医師像を『良医』と定めており、それに基づき教育目標を適切に設定している。学部の教育目標は、本学オフィシャルサイト及び印刷媒体で広く周知がなされている。

国際基準に適合した医学教育を行うために、『世界医学教育連盟』の認定機関である『日本医学教育評価機構』による認証評価を受審予定であり、国際基準での内部質保証及び継続的な点検を行う仕組みとなっている。

科目毎の到達目標について、科目間での縦断的な役割分担及び到達目標を専門領域の枠を越えて検討する必要がある。また、科目毎のパフォーマンスレベル（学修到達度）及び到達目標を「授業要覧」、「学部学科案内（CHALLENGE）」等で周知し、大学構成員の更なる理解へ繋げる。

認証評価受審は、医学部全体で取組む必要があるため、今後、各種会議体等で周知していく。

（5）根拠資料

- 1-2-14-1 東海大学オフィシャルサイト 医学部
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html>
- 1-2-14-2 医学部授業要覧
- 1-2-14-3 CLINICAL CLERKSHIP HANDBOOK
- 1-2-14-4 学部学科案内（CHALLENGE）
- 1-2-14-5 医学教育分野別評価基準

2017年度 健康科学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

健康科学部の「教育研究上の目的及び養成する人材像」として、「建学の精神」のもと、「ヒューマンズムと科学の融和、自然と人間の調和をめざし、人道主義の理念のもとに、健康で生きがいに満ちた福祉社会の実現に向けて、人々の多様な健康ニーズに対処する、保健・医療・福祉専門職を育成する」ことを目標として掲げている（資料1-2-15-1）。『温かい人間性と謙虚さ、幅広い教養をもとにしたコミュニケーション力を育成し、保健・医療・福祉の専門職として、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる能力の育成。多職種間の連携をはかり、チームの一員として活躍できる力をつけ、自ら学び、国内外で活躍し得る人材の育成』を目指している。（資料1-2-15-1）

看護学科では、学部の教育理念のもと、健康な人から病んでいる人まで様々な健康レベルの人に、また、地域・在宅から病院や施設に至るあらゆる場で「その人らしい健康的な生活を大切にするための看護」が実践できる人材を育成すると共に、常に新しい看護を創造する能力を持った人材を育成することを目標としている（資料1-2-15-2）。

社会福祉学科では、大学・学部の教育理念に沿って、現代の社会福祉を巡る生活課題を明らかにし、これらの諸課題に対応する具体的施策や社会福祉実践方法の理論と実際を教授していくことをとおして、①温かい人間性と幅広い教養を身につけること②現代の多様化するニーズに対応できる幅広い知識を持つこと③実証的能力とコミュニケーション能力を併せ持つこと④国際的視野も有する、実践的能力に富む人材を養成することを教育目標としている（資料1-2-15-3）。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

学部の理念・目的ならびに養成する人材像は、「授業要覧」に説明されている（資料1-2-15-4、学部 pp. 33-34、看護学科 pp. 43-44、社会福祉学科 pp. 71-72）。また、大学オフ

ィシャルサイトにおいて学部（資料 1-2-15-1）ならびに両学科（資料 1-2-15-2、1-2-15-3）の理念・目的ならびに養成する人材像を掲載するとともに、学科パンフレット（資料 1-2-15-5、1-2-15-6）にも同様に掲載し、教職員および学生に周知している。学生に対しては、学部ガイダンスや学科ガイダンス、ならびに現代文明論 2 の講義において、学部の理念・目的ならびに養成する人材像と、そこに至るまでの学習や研鑽の必要性について伝達し、周知している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

2014～2018 年度の大学の中期目標に基づき、2014 年から学部のミッション・シェアリング・シートを作成し、学部の諸施策を設定している（資料 1-2-15-7）。健康科学部では、教育目標にあるコミュニケーション能力の育成、ヒューマンケアの実践能力の育成、国際貢献、地域貢献（伊勢原市との連携事業である健康クラブの運営）に関する施策を中心に作成した。達成目標が具体的になっているので、よい指標となっている。

（２）長所・特色

特になし。

（３）問題点

建学の精神に基づく理念・目的・教育目標についての説明は、年度始めのガイダンスや新入生・新採用者には徹底して行っているものの、上級学年や経験を積んだ教職員対象には改めて周知できていない。上級学年の学生に対しても、建学の精神に基づく理念・目的・教育目標の確認をする機会を設け、教職員に対しても機会あるごとに話題にし、周知する。

（４）全体のまとめ

健康科学部の「教育研究上の目的及び養成する人材像」は、建学の精神や大学の教育の姿勢にある「ヒューマニズム」「文系・理系の領域を融合した幅広い知識」「国際性豊かな視野」を基盤とした、保健・医療・福祉専門職を育成することである。学部・学科の「教育研究上の目的及び養成する人材像」は、大学オフィシャルサイトで公開され、周知されている。新入生や新採用者への周知はできているが、上級学年や在職者への再周知をしていく必要がある。

（５）根拠資料

1-2-15-1 東海大学オフィシャルサイト（健康科学部の教育方針と教育目標）

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/educationpolicy.html

- 1-2-15-2 東海大学オフィシャルサイト（看護学科の教育方針と教育目標）
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/nursing/educationpolicy/
- 1-2-15-3 東海大学オフィシャルサイト（社会福祉学科の教育方針と教育目標）
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/social_work/educationpolicy/
- 1-2-15-4 授業要覧 2017 学部・学科編 健康科学部（pp. 33-34、43-44、71-72）
- 1-2-15-5 2017 学科案内 健康科学部看護学科
- 1-2-15-6 2017 学科案内 健康科学部社会福祉学科
- 1-2-15-7 2017 年度健康科学部ミッション・シェアリング・シート

2017 年度 経営学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

経営学部の教育目的・理念は、東海大学学則（別表1）（資料1-2-16-1 p.23）に次の通り明示されている。「経営学部では、グローバル化、情報化の進展、消費者ニーズの多様化等により到来する高度知識社会を生き抜くために『理論と実践の融合』ができる人材の養成、特に地域の産業活性化（企業経営・スポーツ・アグリビジネス・観光ビジネス）に寄与する人材の養成を図ることを目的とする。その目的を遂行するために、経営学を基盤に、マネジメント能力、コミュニケーション能力、論理的思考力、チームワーク力、リーダーシップ能力、社会的責任の遂行能力等を修得する。それにより、『理論と実践を融合』できる能力を涵養し、社会をリードできる人材及び自らの手で新たなビジネスを創造できる人材を養成する。」

経営学部は2013年度より発足しているが、2017年3月に卒業した経営学部1回生は、「2018 経営学部 GUIDE BOOK」（資料1-2-16-2 p.14、1-2-16-3 p.22）に記載されているように、金融関係、J A、実業団、旅行会社・ホテル関係等に就職している。つまり、企業経営、アグリビジネス、スポーツビジネス、観光ビジネスの分野で活躍しており、経営学部の教育目的・理念は実績という観点でも適切であるといえる。現代社会の様々なビジネスシーンを想定して、個性化にも対応している。

大学の理念・目的と学部の目的の連関性についてであるが、学部が養成する力は上記にあるように、マネジメント能力、コミュニケーション能力、論理的思考力、チームワーク力、リーダーシップ能力、社会的責任の遂行能力であるが、これらは、大学の教育理念に基づく「四つの力」である「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」に相当するものであり（Tokai University Guide Book 2017（資料1-2-16-4 p.4））、大学の理念と学部の目的との連関は密であるといえる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

経営学部、およびそのなかの経営学科、観光ビジネス学科の教育目的・理念は、東海大学学則（別表1）（資料 1-2-16-1）として、オフィシャルサイトで、大学構成員に周知され、社会に公表されている。また東海大学オフィシャルサイトの経営学部ホームページ（資料 1-2-16-5）及び授業要覧（資料 1-2-16-6 授業要覧 2017 学部・学科編 経営学部・基盤工学部・農学部 pp. 41-43、57-58）にも記載されている。特に学生に対しては、学科別ガイダンスの際に、授業要覧をもとに学部・学科の理念・目的を説明している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

本学部は 2013 年 4 月に設置された新しい学部であり、設置時に学部の理念・目的は精査のうえ定めている。学部自体は学年進行中であり、2016 年度末に初めて卒業生を送り出した。大学・学部の理念・目的は、元々普遍的な意味を持つ概念であり、また上述したとおり、本学部は学年進行中のため、毎年理念・目的の適切性を検証するといったことは行っていなかった。

大学全体として、次回カリキュラム改訂が 2018 年度に予定されていたため、そのタイミングに合わせて、開設後 1 回目の見直しを実施した。学部長、主任、教務委員参加の学部執行委員会の会議で将来を見据えたプランを策定した。学部の教育理念・目的に掲げられている「理論と実践の融合」を行ってきたが、特に経営学科の授業のなかで、理論に裏打ちされない実務に傾く嫌いが大であったので、理論と実践のバランスを図るため、学識経験、アカデミックさ（資料 1-2-16-4 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2017、p.150）も重視したカリキュラム改訂を行った。

また毎年度、学部長、主任、教務委員参加の学部執行委員会を複数回開催して、東海大学中期目標に合わせた学部の目標値の設定を行っている（資料 1-2-16-7）。

（２）長所・特色

経営学部の理念・目的は、大学の理念・目的とリンクし、適切に設定されており、構成員への周知・公表方法も有効である。カリキュラム改訂に合わせて、「理論と実践の融合」の実際の弊害の是正、軌道修正を行うことができた。

（３）問題点

現行カリキュラムで、「理論と実践の融合」を掲げたが、理論の裏打ちのない実務が、授業の中で優先されることが多々あった。

（４）全体のまとめ

今後も、構成員への周知・公表方法の有効性を維持し、定期的に検証していくことにする。カリキュラム改訂の機会を利用して、学部長、主任、教務委員参加の学部執行委員会の会議で理念・目的を定期的に検証している。

（５）根拠資料

1-2-16-1 東海大学学則 別表 1 p. 23.

1-2-16-2 2018 経営学部 GUIDE BOOK p. 14.

1-2-16-3 2018 経営学部 GUIDE BOOK p. 22.

1-2-16-4 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2017 p. 4. p. 150.

1-2-16-5 東海大学オフィシャルサイト 学部・大学院 経営学部

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/

1-2-16-6 授業要覧 2017 学部・学科編 経営学部・基盤工学部・農学部 pp. 41-43、57-58

1-2-16-7 ミッション・シェアリング・シート 2017 年度 経営学部

2017年度 基盤工学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

本学部は、広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成するという本学の理念（資料 1-2-17-1 第1条）に基づき、次世代で重視される安全・安心を確立するエネルギー・ロボット・食品・医療・福祉分野に欠かせない基盤工学の技術を理解し、その分野の発展に寄与する実践力を持った技術者を育成することを目的としており、学部の理念・目的は適切に設定されている（資料 1-2-17-2 pp.71-72）。

学部がスタートして4年が経過した。学部の理念・目的を具現化するための教育研究環境は順次整備されており、理念・目的の適切性を示している。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

授業要覧（資料 1-2-17-2 pp.71-72）、東海大学教育研究年報（資料 1-2-17-3）、大学案内（資料 1-2-17-4）、本学オフィシャルサイト（資料 1-2-17-5）等に、学部の理念・目的・教育目標を掲出して学内外への公開を行っている。教職員については、新任教員大学説明会や新任教員フォローアップ研修会にて、建学の精神や建学の精神に基づく本学の理念、教育方針について学ぶ機会が設けられている。学生に対しては上記以外に建学の精神を具現化した「現代文明論 1」（資料 1-2-17-6）を必修とし、この中で理念・目的を示している。教員については、学部主催の「現代文明論 2」（資料 1-2-17-7）において、教員自らが理念・目的を理解し、講義しており、有効に周知されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点**○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定**

2017年7月、建学100周年に向けた学園の羅針盤となる「学園マスタープラン」（資料1-2-17-8）が策定された。この中で、2017年～2041年の間に実施が予定される主な事業等が示されている。

（２）長所・特色

2013年度に今後5年間の目標設定（東海大学第II中期目標）（資料1-2-17-9）が策定されたことにより、全学的な教育研究上の目的及び養成する人材像が明示された。これにより、学部教育目標もさらに明確化された。

（３）問題点

本学の教育理念は変わることはないが、2018年度から新カリキュラムがスタートするので、学部教育目標が適切に設定されているか検証する必要がある。

（４）全体のまとめ

広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成するという本学の理念は変わらないが、時代の流れに従い、これから求められる人材を見極める必要がある。今後は更に情報関連技術が必要となる。そこで、本学部ではネットワーク・セキュリティ、情報メディア、知能ロボット、地球環境・植物生産、臨床工学及び医療情報の分野等で活躍できる人材の育成を目指す。

（５）根拠資料

1-2-17-1 東海大学学則

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>

1-2-17-2 授業要覧2017 学部・学科編 経営学部 基盤工学部 農学部

1-2-17-3 東海大学教育研究年報

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual_report/

1-2-17-4 東海大学 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2017 大学案内

1-2-17-5 東海大学オフィシャルサイト基盤工学部の教育研究上の目的、養成する人材像
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/industrial_and_welfare_engineering/educationpolicy.html

1-2-17-6 現代文明論1 概要

1-2-17-7 現代文明論2 概要

1-2-17-8 学校法人東海大学学園マスタープラン

1-2-17-9 東海大学第II期中期目標（2014年度～2017年度）

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html

2017年度 農学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

応用植物科学科の教育研究上の目的は、講義で知識を得るだけでなく、実験・実習を通じて直接植物に触れ、また農業や自然に接することによる体験型の教育を通して、理論だけでなく創造性豊かな人材を養成することと設定されている（資料 1-2-18-1）。また、応用動物科学科のそれは、動物生産科学を中心にして、生命科学および環境科学の幅広い学識を基に、動物生産だけでなく健全な自然・社会環境の維持・発展に貢献できるような人材を養成することと設定されている（資料 1-2-18-2）。さらに、バイオサイエンス学科のそれは、生命科学的な観点から生物やその生産物の特質についての幅広い学識に基づき、食の重要性と生命の尊さを理解し、総合的な専門知識で人類の健康に貢献できるような人材を養成することと設定されている（資料 1-2-18-3）。この様に農学部では、知識や技術の単なる教授に止まらず、農業や食の重要性そして生命の尊さを理解し、健全な社会の維持発展に貢献できる人材育成を目的としている。これを基軸とし、知識偏重ではなく、体験型教育により創造性豊かで個性ある学生の育成を目指している。さらには、理系だけではなく文系領域も融合し、幅広い知識を身につけながら、多様な価値観を寛容し健全な地域社会とその総体である国際社会を考え、その発展に貢献できる人材育成を図っている（資料 1-2-18-4）。このことは、本学の掲げる人材育成のための教育理念（資料 1-2-18-5, 1-2-18-6, 1-2-18-7）と合致する。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

学部および学科の理念・目的は、学生および教職員全員に配付される授業要覧（資料 1-2-18-8）に示されている。初年次教育である必須科目の「フレッシュマンゼミナール」にて各学科ともにこの要覧を利用しその内容が解説されている。さらにその要点は本学のWebサイト（資料 1-2-18-1、1-2-18-2、1-2-18-3、1-2-18-4）に掲載され、周知・公表され

ている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

本学は5つの第II期中期目標を定めている（資料1-2-18-9）。「(1)4つの力を身につけた人材を社会に輩出できる大学」に関し、卒業時の学生アンケートにより教育効果の評価を行い、実践できたと回答した学生が93.6%に上ることを確認した（資料1-2-18-10）。加えて、地域連携を通じた実践型教育にかかる新たな4科目（発展教養科目）の2018年度からの導入を決定した（資料1-2-18-11）。「(2)教育研究を軸とした大学の総体として、イノベーションの創出ができる大学」を達成するための施策として、九州地域の産官学機関と7件、全国の産官学機関と21件の委託・共同研究を実施し一定の成果を得た（資料1-2-18-12）。「(3)地（知）の拠点として、社会と連携できる大学」に関する施策として、COC+の研究分野の課題を2件およびTo-Collaboの研究分野の課題を1件実施した（資料1-2-18-13）。またCOC+事業において「くまもとプレマイスター」を認定する教育プログラムを設置し（資料1-2-18-14）、人材育成のための具体的施策とした。さらに、環境省ならびに熊本県と「阿蘇地域の創造的復興に向けた地域循環共生圏の構築に関する協定」を締結し（資料1-2-18-15）、社会連携の基盤を作った。「(4)グローバルユニバーシティとして、国際社会と連携できる大学」に関しては、協定校からの交換研究者や交換留学生の受け入れをその施策の一つとして考えているが、震災により2016年度に中止し、本年度は体制が整っていないため実施できていない。来年度には再開する計画である。「(5)大学の活動を支援できる、経営基盤が安定した大学」に関して、学生数は定員の1.02倍を確保している（資料1-2-18-16）。受験生増を目的とし、生涯学習講座やサイエンスカフェなど市民講座を企画運営し（資料1-2-18-17、1-2-18-18）、地域への本学部の広報を図った。

（2）長所・特色

本学部の特色である、座学の場合と実習の場合を併設したキャンパスでの実践的な教育により、主体性を育ててきたが（資料1-2-18-19 p.101）、昨年度は震災の影響によりこのキャンパスの利用ができなかった。阿蘇地域までの代替の交通経路が確保された今年度秋学期からは、実習領域のみ教育利用を試行的に一部再開した。来年度からは実習領域を教育に全面的に利用する予定である（資料1-2-18-20）。このことで、本学部の特色を少なくとも維持できるものとする。

（3）問題点

暫定的に熊本キャンパスにおいて授業を実施し、阿蘇キャンパスでは安全性を確保した上で使用可能な部分において、フィールドでの実習等を実施しているが、本学部の特色を活かす十分な体制とは言えない。宇宙情報センターの用地を活用した新キャンパスの整備、

研究・地域連携活動の充実、実習教育用施設の整備などの基本的な方向性が掲げられた中（資料 1-2-18-20）、今後実際にどのような具体的計画を立て運用していくかが重要である。そのため、今後は学部内での将来計画に関するワーキンググループを中心に検討していく。

（４）全体のまとめ

農学部では、本学の掲げる人材育成のための教育理念に基づき、学部の目的を適切に設定し、これらを明示し周知・公表している。さらに本学の中期計画に基づき、諸施策を設定するとともに、これらが機能しているか検証をし、施策の改善につなげている。今後は本学部の理念・目的が適切に実現できるよう震災後の復興を創造的に進めて行く必要がある。

（５）根拠資料

- 1-2-18-1 東海大学オフィシャルサイト 農学部応用植物科学科 教育上の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 1-2-18-2 東海大学オフィシャルサイト 農学部応用動物科学科 教育上の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 1-2-18-3 東海大学オフィシャルサイト 農学部バイオサイエンス学科 教育上の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 1-2-18-4 東海大学オフィシャルサイト 農学部 教育上の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 1-2-18-5 東海大学オフィシャルサイト 東海大学 建学の精神
- 1-2-18-6 東海大学オフィシャルサイト 東海大学 本学の使命と人材育成のための教育理念
- 1-2-18-7 CORE2017 松前重義と建学の精神
- 1-2-18-8 授業要覧 2017 学部・学科編 経営学部 基盤工学部 農学部
- 1-2-18-9 東海大学オフィシャルサイト 東海大学 第 II 期中期目標
- 1-2-18-10 2018 年度第 2 回農学部教授会資料 2017 年度卒業にあたってのアンケート結果
- 1-2-18-11 授業要覧 2018 学部・学科編 経営学部 基盤工学部 農学部
- 1-2-18-12 学内メール文章 委託・共同研究の件数
- 1-2-18-13 COC+および To-Collabo 研究の書類
- 1-2-18-14 2017 年度第 13 回九州キャンパス部長連絡会議資料 くまもとプレマイスター教育プログラム
- 1-2-18-15 東海大学オフィシャルサイト 2017 年度ニュース 2018 年 1 月 17 日
- 1-2-18-16 2017 年度第 2 回農学部教授会資料 学科別在籍人数表(全体)
- 1-2-18-17 東海大学地域連携センターオフィシャルサイト 2017 年度前期生涯学習講座

1-2-18-18 2017 年度農学部サイエンスカフェ プログラム

1-2-18-19 授業要覧 2016 学部・学科編 経営学部 基盤工学部 農学部

1-2-18-20 東海大学オフィシャルサイト 2017 年度ニュース 2018 年 3 月 19 日

2017 年度 国際文化学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

本学部においては、「自らの思想を培う」、「学生一人ひとりの素質の伸張を支援する」、「文理融合の幅広い知識と国際性豊かな視野の獲得」という大学の人材育成上の理念（資料1-2-19-1）を踏まえ、学部、学科ごとに人材育成上の方針を定めている。特に、大学の人材育成上の理念として「国際性豊かな視野の獲得」が掲げられていることから、本学部が育成すべき汎用的能力として、「どこの国・地域の人とも積極的に交流し、お互いを理解できるようになるために必要な、語学力と異文化理解能力」（資料1-2-19-2）を設定したことは、大学の理念に沿っているという意味で、適切に設定できていると判断できる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本学部では、学部、学科ごとに人材育成上の方針を定め、大学のホームページ上において公開している（資料1-2-19-2）。また、学生に配布している『授業要覧』の中で、学部、学科別に「教育方針及び教育目標」を定め、その中で「養成しようとする人材」の項目を設置し、学生と教職員に対し人材育成上の理念・目的を明示している（資料1-2-19-3）。以上のことから、人材育成上の理念・目的とそれを実現するための教育目標・方針を適切に明示し、広く社会と学生・教職員に周知・公表ができていると判断できる。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

大学の中期目標（2014―18年度）には、5年後の大学のあるべき姿が描かれており、その4番目の目標として、「グローバルユニバーシティとして、国際社会と連携できる大学」が設定されている（資料1-2-19-4）。また、当該目標を達成するための実施事項として、1）特色を活かした国際連携強化、2）海外の教育研究機関との連携強化、3）スポーツ・文化での国際連携強化、4）国際連携での人材育成に協力の4つが掲げられている（資料1-2-19-4）。本学部では、この大学の中期目標にある国際連携に関する到達目標を踏まえ、毎年大学に提出する学部の目標設定シートである「ミッション・シェアリング・シート」において、「世界で活躍できるグローバル人材の育成」として、「在学生の留学機会を拡大させる」と「キャンパスに外国人留学生を増やす」に関する目標を設定した（資料1-2-19-5）。在学生の留学機会の拡大においては目標を達成できたが、学部に入學する海外留学生（本科生）については目標を達成できなかった（資料1-2-19-5）。以上のことから、大学中期目標を踏まえた学部の目標設定はできたものと評価している。但し、海外留学生の受入れに関する目標達成に課題を残した。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

特になし。

（4）全体のまとめ

大学全体の理念・目的及び中期目標を踏まえた学部の理念・目的及びそれを実現するための目標設定はできていると評価できる。今後は、大学の理念・目的及び中期目標に掲げられている国際性豊かな人材育成に対し、大学内で「国際」を冠する唯一の学部として特色のある国際連携活動を展開する。

（5）根拠資料

1-2-19-1 大学の人材育成上の理念

https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/

1-2-19-2 学部の3つのポリシー

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/international_cultural_re/educationpolicy.html

1-2-19-3 授業要覧 2017年度版、pp. 37-40, pp. 55-57, pp. 71-72

1-2-19-4 東海大学中期目標（2014―18年度）p. 3

1-2-19-5 国際文化学部ミッション・シェアリング・シート（2017年度自己点検）

2017年度 生物学部 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

生物学部は学校法人東海大学に設置された一学部であり、本学の「建学の精神」および「東海大学の理念・憲章」（資料 1-2-20-1 p. 1、1-2-20-2 建学の精神, 理念・憲章）に基づいて、学則第1条別表（資料 1-2-20-3）に養成する人材像、教育目標が掲げられている。また、期間を区切った東海大学第Ⅱ期中期目標に「東海大学のミッション」（資料 1-2-20-4）が示されており、生物学部においては「建学の精神」「東海大学のミッション」を踏まえ、教育研究上の目的を「教育研究上の目的及び養成する人材像」や東海大学学則の第1条（資料 1-2-20-5）で定めている。これらを基に、生物学部で「教育研究上の目的及び養成する人材像」（資料 1-2-20-3）を策定している。また、全学部・研究科共通として掲げている3つのポリシー（資料 1-2-20-6）の下で各種活動を行っている。このように、大学の理念・目的と学部の目的の連関性、学部および設定する人材育成やその他の教育研究上の目的が明らかにされている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

東海大学学則の第1条（資料 1-2-20-5）、授業要覧（資料 1-2-20-7 p87、pp. 89-90、pp. 103-104）、大学案内（資料 1-2-20-8 p.（表紙裏）-p. 4）、生物学部案内（資料 1-2-20-9 p. 2-3）、本学部オフィシャルサイト（資料 1-2-20-10、1-2-20-11）、生物学科オフィシャルサイト（資料 1-2-20-12）、海洋生物科学科オフィシャルサイト（資料 1-2-20-13）等に、建学の精神、理念・目的・教育目標について掲出して学内外への公開を進め大学の理念・目的と学部の目的の連関性が周知されている。特に学生に対しては、1年生対象の必修科目「現代文明論」の中で東海大学の歴史、建学の精神、東海大学のミッションが紹介されるとともに、すべての授業シラバスで教育目標に直結するカリキュラム・マップが掲げられており、学部が設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示が教職員、学生、社

会に対する刊行物、Web サイト等で行われている（資料 1-2-20-7 pp. 91-100、pp. 105-115、1-2-20-9、1-2-20-11）。生物学部が設置されている札幌校舎では、教職員や学生が日々出入りする正面入り口に「建学の精神」の四つの言葉が掲げられている。教職員に対しては、新任職員研修、新任教員大学説明会、新任教員フォローアップ研修会（資料 1-2-20-14）、教員 5 年次フォローアップ研修会（資料 1-2-20-15）が主な周知機会となっている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

毎年提出している自己点検・評価報告書の作成過程において、生物学部長および学部を構成する両学科主任が適切性について定期的に検証を行っており、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定を行っている（資料 1-2-20-4）。

（２）長所・特色

特になし。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

大学・学部・各学科の理念・目的は、大学構成員（教職員および学生）に正しく認識されており、学部運営においても逸脱した活動は見られず、適切に用いられている（資料 1-2-20-8 p. 9、p. 12、1-2-20-9 pp. 1-2、1-2-20-10、1-2-20-11、1-2-20-12、1-2-20-13）。今後も継続して対応していく予定である。

（５）根拠資料

- 1-2-20-1 東海大学オフィシャルサイト（理念・憲章）
https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/
- 1-2-20-2 東海大学オフィシャルサイト（建学の精神）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/spirit/>
- 1-2-20-3 東海大学学則 別表 1
- 1-2-20-4 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014 年度～2018 年度）
- 1-2-20-5 東海大学学則
- 1-2-20-6 東海大学オフィシャルサイト（3 つのポリシー）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>
- 1-2-20-7 授業要覧 2017 学部学科編（生物学部）
- 1-2-20-8 東海大学 TOKAI UNIVEERSITY GUIDE BOOK 2017（大学案内）

- 1-2-20-9 東海大学 学部・学科案内（生物学部案内）
- 1-2-20-10 生物学部オフィシャルサイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/>
- 1-2-20-11 生物学部オフィシャルサイト（教育方針）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/educationpolicy.html>
- 1-2-20-12 生物学部生物学科オフィシャルサイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/bioscience/educationpolicy/>
- 1-2-20-13 生物学部海洋生物科学科オフィシャルサイト
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/marine_biology_and_scienc/
- 1-2-20-14 新任教員フォローアップ研修会
- 1-2-20-15 教員5年次フォローアップ研修会

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

本研究科の目的は、適切に設定している。「建学の精神」「東海大学のミッション」を踏まえた東海大学大学院学則第一条に大学院の目的が定められ、第一条の2で本研究科の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を、現代理工学を象徴するように下記の通り適切に設定されている（資料1-3-1-1）。

“総合理工学研究科は現在の科学技術の複合化の方向に対して、学際性、国際性を有し、先端性、将来性を兼ね備えた教育研究の拠点を形成し、既存の学問領域にこだわらず専門領域の垣根を越えた教育・研究を実現することを理念・目的としている。総合理工学研究科では世界に向けて情報発信できる高度な研究能力を備え、かつ国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かな研究者、技術者、国際機関職員など各方面でリーダーとして活躍し得る人材の育成を大きな目的としている。”

「教育研究上の目的及び養成する人材像」「学位授与方針」をディプロマ・ポリシーとして、教育課程と学位論文審査基準）をカリキュラム・ポリシーとして、「求める学生像」と「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」をアドミッション・ポリシーとして、それぞれ掲げている（資料1-3-1-2）。本研究科は、科学技術の複合化に応えるため、すべてのキャンパスに亘る一研究科一専攻という特徴的組織で運営され、学際的な研究・教育を進めている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本研究科の理念・目的は、大学構成員に周知するとともに、社会に公表されている。研究科の目的や養成する人間像について、本学オフィシャルサイト「学部・大学院」の中にある本研究科のページに記載され公表されている（資料1-3-1-2）。

「大学院ガイド」（資料1-3-1-3）にも掲載するなど、他の公表にも努めている。さらに、入学時のガイダンスで学生個々に配付される入学年度の「東海大学大学院要項（I）」（資料

1-3-1-4)にも、理念・目的は記載されており、学生への周知・公表の一助となっている。なお、この「東海大学大学院要項（I）」は、毎年研究科教員にも配布されており、教員は年度はじめに再確認でき、変更等があれば、直ちに理解できる。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

本研究科の中長期的計画は、一研究科一専攻という特徴を反映し、研究科長、専攻主任、教務委員、FD委員による機動的な運営会議を経て、教務課をはじめとする各部署との意見交換を行いながら、コース長会議や教授会に諮って進めている。具体的には、組織的就職支援、連携大学院制度の見直し、進学率向上、教員数向上、大学ランキングへの貢献などを中長期的計画として取り上げている（資料 1-3-1-5）。

組織的就職支援として、キャリア就職センターとの協議を継続的に行い、今年度、求人票の改訂や本研究科担当者の設定がはじめてできた（資料 1-3-1-6）。教員数向上や大学ランキングへの貢献などを想定し、研究科の教員資格審査・再審査基準の見直しを毎年少しずつ行っている（資料 1-3-1-7）。

（２）長所・特色

本学の理念・目的を反映し、研究科の目的の設定や公表を行っている。また、中長期計画も議論できている。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

本学の理念・目的を反映し、研究科の目的の設定や公表を行っている。また、中長期計画も議論できている、わずかながら成果も挙げられている。

（５）根拠資料

1-3-1-1 東海大学大学院学則

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/>

1-3-1-2 総合理工学研究科 HP

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/science_and_technology/

1-3-1-3 大学院ガイド

1-3-1-4 東海大学大学院要項（I）

1-3-1-5 2017 年度第 5 回コース長会議資料(スライド)抜粋

1-3-1-6 キャリア就職センター所長からの回答メール

1-3-1-7 総合理工学研究科教員資格再審査に関わる基準（2017 年 4 月 1 日改訂版）

2017 年度 地球環境科学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

地球環境科学研究科では、大学全体の理念・目的を受けて、「人類は、地球温暖化やエネルギー問題に見られるように、生命 38 億年の地球の歴史の中で地球生態系を一瞬のうちに変質させてしまった。今後の人類の生存、地球環境の保全のためには、地球生態学、生命科学、地球観測科学等からなる新しい「地球環境科学」を構築することが求められている。地球環境科学研究科は、このような社会的要請に応えるため、地球生命圏の一員として未来を志向した思想を培い、新しい「地球環境科学」の教育並びに研究を推進することを研究科の理念・目的とする。また、幅広い視野に立った国際的、学際的かつ学融的な考究力と豊かな創造性を備え、21 世紀の地球環境と人間社会に貢献できる研究者、高度専門職業人を育成する。」を理念・目的としている（資料 1-3-2-1 p.30、1-3-2-2）。この理念・目的は本研究科で学位を取得した 卒業生がそれぞれの専門分野の業界で活躍していることから、適切であると考えられる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

前述した理念・目的は、東海大学大学院学則（資料 1-3-2-3）第1条の2の別表（資料 1-3-2-4）、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-3-2-2）、2017 年度 東海大学大学院ガイド（資料 1-3-2-5）に記載され、学内外に公表されている。双方とも、多くの学内外関係者が目にすることができるため、周知方法は有効である。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

現在のところ、中・長期の計画、その他の施策の設定は行っていない。ただし、今後問題点があれば、FD 活動で問題点を抽出し、大学院教授会において審議後、研究科長から学長に意見具申する。

（２）長所・特色

地球生命圏の一員として未来を志向した思想を培い、新しい「地球環境科学」の教育並びに研究を推進することを研究科の理念・目的とする。

（３）問題点

理念・目的は明確にしているが、博士課程への進学者数が少ないのが問題である。

（４）全体のまとめ

修士課程の学生に対して、博士課程としての地球環境科学研究科の理念・目的を説明する機会を設けて、進学者を増やす努力が必要であると考ええる。

（５）根拠資料

1-3-2-1 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅰ）

1-3-2-2 東海大学オフィシャルサイト 地球環境科学研究科

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/earth_and_environmental_s/

1-3-2-3 東海大学大学院学則

1-3-2-4 東海大学大学院学則 別表 1

1-3-2-5 2017 年度東海大学大学院ガイド

2017年度 生物科学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

本学の「建学の精神」と東海大学大学院学則（資料 1-3-3-1）第1条に示された大学院の目的、同第5条に示された博士課程及び博士課程後期の目的に沿って、生物科学研究科では人材の養成に関する目的、その他の研究教育上の目的について、東海大学大学院学則別表1（資料 1-3-3-2）に示されるように以下のように設定されている。全生物を対象とし、これらを分子レベルから、細胞、組織、個体、集団、群集レベルまでの各スケールを包括した総合的または先端的で高度な生命科学教育研究を実践する。生物科学を基礎から応用までの実践科学と位置づけ、所属する多彩な研究者や研究施設を効果的に糾合・活用し、生命現象の発現・調節にかかわる機能の解明から、生物資源の生産・開発と高度利用までを目指した研究・教育を行う。このため、生命現象の基礎研究とその応用を追究する「生命科学コース」と基礎研究に根ざした生物資源の高度利用をめざす「生物資源科学コース」を設置した。両コースは密接に連携し、実践力と広い見識を持つ生物科学研究者・技術者の養成を目指す。そして、国内外の学術交流を深めて国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持ち、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる人材の養成を行う。

これらの理念や目的はMSシート（資料 1-3-3-3）の作成を通して、各教員の活動報告、所属教員のキャンパスにおける施設充実度などを基にし、適切性や個性化について検証している。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本研究科の理念・目的・教育目標については、2017年度東海大学大学院要項（Ⅰ）（資料 1-3-3-4 p.33）、2017年度東海大学大学院ガイド（資料 1-3-3-5 p.8）で明記されているほか、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-3-3-6）においても同様の内容が掲載され

ており、当研究科の理念・目的・教育目標等は、大学構成員に周知され、さらにこれらの情報を求める学外の人々が容易に入手可能であり、公表されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

理念・目的については十分検討されたものであるため基本的には変えられるべきものではないが、本学の第Ⅱ期中期目標（資料 1-3-3-7）の達成状況の検証や大学院博士課程の理念の見直しがある際に適切性について検証を行うために、研究科長・主任を中心にMSシート（資料 1-3-3-3）の作成を通して、その策定を図り教授会において定期的に検証を行っている。

（２）長所・特色

全生物を対象とし、これらを分子レベルから、細胞、組織、個体、集団、群集レベルまでの各スケールを包括した総合的または先端的で高度な生命科学教育研究を実践することを特色とする（資料 1-3-3-4 p. 33）。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

生物科学研究科では人材の養成に関する目的、その他の研究教育上の目的について設定し、所属する多彩な研究者や研究施設を効果的に糾合・活用し、生命現象の発現・調節にかかわる機能の解明から、生物資源の生産・開発と高度利用までを目指した研究・教育を行う。本研究科の理念・目的・教育目標については、大学構成員に周知され、さらにこれらの情報を求める学外の人々が容易に入手可能であり、公表されている。本理念・目的については十分検討されたものであるため基本的には変えられるべきものではないが、本学の中期目標の達成状況の検証や大学院博士課程の理念の見直しがある際に適切性について検証を行うために、研究科長・主任を中心に策定を図り教授会において定期的に検証を行っている。

（５）根拠資料

- 1-3-3-1 東海大学大学院学則
- 1-3-3-2 東海大学大学院学則 別表1
- 1-3-3-3 2017年度 MS シート
- 1-3-3-4 2017年度東海大学大学院要項（Ⅰ）
- 1-3-3-5 2017年度 東海大学大学院ガイド
- 1-3-3-6 東海大学オフィシャルサイト(大学院;生物科学研究科生物科学専攻(博士課程))
<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/biosciences/>
- 1-3-3-7 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014年度～2018年度）

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

文学研究科は、伝統的な文学研究科の学問領域を超える研究領域を包括し（文明論研究、コミュニケーション学等）、その特長を活かしながら学問の進展と社会の要請にこたえることを存在の立脚点とする。専攻相互および外部の機関との積極的な研究・教育交流によって視野を広め、確固たる研究基礎力と柔軟な思考を備えた専門的能力を持ち、国際的にも活躍できる研究者・人材を育成することを教育理念として掲げている。（資料 1-3-4-1）

この教育理念に基づき、教育研究上の目的及び養成する人材像（ディプロマ・ポリシー）として、「当該分野の先行研究及び資料を的確に理解できる読解力を有し、説得力のある主張を組み立てられる論理的思考力と的確な文書表現力を有すると認められ、所定の課程を修め、論文審査（あるいは特定の課題についての研究成果）で認められた者」に修士の学位を、また、「当該分野の先行研究を的確に理解できる読解力と先行研究を批判的に検証できる能力を有し、資料を的確に読解できる能力と的確に用いながら説得力のある主張を組み立てられる論理的思考力を持ち、的確な文章表現力を有すると認められ、所定の課程を修め、論文審査で認められた者」に博士の学位を授与することを定めている（資料 1-3-4-2）。さらに、各専攻の目的は、「東海大学大学院学則 別表 1」（資料 1-3-4-3）及び「2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）」（資料 1-3-4-4 pp. 20-21）において、人材の養成および教育研究上の目的を定めている。

文学研究科は、伝統的な史学専攻・日本文学専攻・英文学専攻に加えて文明研究専攻・コミュニケーション学専攻・観光学専攻のような新たな総合的研究領域と方法を持つ専攻が共存し、相互に学問研究の交流を行ってきた。これは多種多様な総合化は研究・教育の高度化・活性化を図るもので、本研究科の大きな特長といえる。また、本研究科の編成は文学部・観光学部との学問分野の連続性を保持している。本研究科ではカリキュラム編成や組織制度の運用についても柔軟に対応し、研究・教育面での教員や学生の国際交流の促進に力を入れ、国際的に活躍できる人材の育成を目指している。こうした点から、上記に掲げた本研究科の理念・目的は適切に設定されていると考える。（資料 1-3-4-5）

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

文学研究科の教育理念・目的は、学生に配布される「2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）」（資料1-3-4-4 p.20）、受験生向けに発行される「2017年度 東海大学大学院ガイド」（資料1-3-4-5）、東海大学オフィシャルサイト（資料1-3-4-2）等に掲載、提示され、大学構成員への周知を図ると同時に社会に向けても公表されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

文学研究科では各年度において現在の教育理念・目的を実現するための諸施策および成果の検証が行われてきた。しかし、2017年の建学75周年を見すえた中・長期的方針「学園マスター・プラン」の策定が開始され、研究科の教育に関しても再検討が進められてきた。その方針、諸政策は2018年度開始時に提示することとなり、「育成すべき人材像」の再検討では、各学科にて3つのポリシーの見直し、明確化が図られることとなっている。

（2）長所・特色

文学研究科の特色は人文科学と社会科学の多様な研究領域が総合する点である（資料1-3-4-4 pp.20-50）。各専攻は各々の学問領域の専門研究の展開に資する講義・演習を配すると同時に、専攻を超えた大学院生の履修も積極的に認めることで、交流を図っている。

（3）問題点

文学研究科では、理工系研究科と異なり必ずしも十分なコースワークの設置が進められていない。学部教育における教養教育重視のなか、大学院教育においてもさらに高度な教養教育実現を見据えたコースワーク導入の検討を進める時期にきている（今後の課題）。

（4）全体のまとめ

文学研究科では建学の精神に基づいた教育の展開がなされてきたが、これまでの年度ごとの点検・評価をふまえ、2018年度以降の教育改革が図られることとなっている。

（5）根拠資料

1-3-4-1 東海大学大学院学則 別表1

1-3-4-2 東海大学オフィシャルサイト 文学研究科

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/letters/>

1-3-4-3 東海大学大学院学則

1-3-4-4 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-4-5 2017 年度 東海大学大学院ガイド

2017 年度 政治学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

大学では、東海大学大学院学則第1条において、「東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする」と理念、目的を明確化している（資料 1-3-5-1）。

政治学研究科（政治学専攻の1専攻）では、これを前提として、その理念・目的を「教育研究上の目的及び養成すべき人材像」として東海大学大学院学則第1条の2（別表1）

（資料 1-3-5-2）に「グローバル化とローカル化、多様性と統一性、分権化と集権化の衝突の中で、わが国及び世界の経済的、経済的、社会的、環境的な持続可能性を実現する新しい政治理論とその応用を探究する。この目的を達成するため、本研究科は、幅広い学際的視野と知的生産の高い研究能力とこの能力に裏打ちされたリーダーシップを身につけた高度職業人と研究者の養成を、その教育研究の理念・目的とする。また、先端的政治・行政研究による特色ある学術情報を国内外に広く発信する拠点を整備し、広く社会に貢献することを目指す」と定めている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

政治学研究科の理念・目的は、「大学院要項（Ⅱ）」（資料 1-3-5-3 p.51）や「東海大学大学院ガイド」（資料 1-3-5-4）において明確に示されており、また「東海大学オフィシャルサイト（政治学研究科政治学専攻）」（資料 1-3-5-5）で広く社会に向けて公表されている。「大学院要項（Ⅱ）」は、本研究科の全教員及び全学生に配付されており、学生に対してはガイダンスにおいても周知している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、

大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

大学では5年間を単位として中期目標を策定しており、2017年度については2014～2018年度に含まれる。中期目標を前提として政治学研究科ではミッション・シェアリング・シートを策定し、教育、研究、社会連携、国際連携、管理・支援体制について年度ごとに実施計画を立て、年度終了時に自己評価を行ってP C D Aサイクルを回している（資料1-3-5-6）。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

大学で策定し、それを前提として大学院で策定するミッション・シェアリング・シートは5年間を単位としており、長期の計画等は策定していない。

（4）全体のまとめ

点検項目①～③について、概ね問題がないと評価できる。ただ、（3）の問題点に記載したとおり、長期にわたる計画等をどのように策定していくかは今後の課題となる。

（5）根拠資料

1-3-5-1 東海大学大学院学則

1-3-5-2 東海大学大学院学則第1条の2（別表1）

1-3-5-3 2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-5-4 2017年度東海大学大学院ガイド

1-3-5-5 東海大学オフィシャルサイト（政治学研究科政治学専攻）

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/political_science/

1-3-5-6 2017年度ミッション・シェアリング・シート政治学研究科

2017 年度 経済学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

経済学研究科においては、大学の理念・目的を受けて、研究科の目的を「経済学研究科は、グローバル化・複雑化し、かつ変化のスピードが速い現代の社会において、経済学と経営学の分野を有機的に連携させていく中で市場と組織に関わる諸問題を解明することを志向します。この教育・研究理念の下、経済・経営現象を究明できる多角的で学際的な知識・視野と科学的な情報収集技能と分析手法を身につけ、経済政策や経営判断の場においては客観的で的確な知見を生み出し、問題を発見してその解決を図る力を発揮し、その過程において積極的にリーダーシップをとって活躍する人材を育成します。」と定めている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

これらの目的は経済学研究科の3つのポリシーにおいて記載されており、Web サイトにおいて学内外に対して公開されている（資料 1-3-6-1）。また、研究科の全教員が参加する新入生ガイダンスではこれらの資料を説明することで、大学構成員に周知を図っている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

大学の策定している中期目標に従い、ミッション・シェアリング・シートを用いて研究科の中期計画をたてて実施している（資料 1-3-6-2）。

（２）長所・特色

研究科の理念・目的は適切に設定されており、大学構成員に周知され、社会に公開されている。また、それらについては定期的に検証されている。

（３）問題点

オフィシャルサイト（資料 1-3-6-1）の記述が煩雑になってしまっているため、記述の整理が必要となっている。

（４）全体のまとめ

研究科の理念・目的の設定、公表に関しては概ね適切に運用がなされている。

（５）根拠資料

1-3-6-1 東海大学オフィシャルサイト 経済学研究科 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/economics/>

1-3-6-2 経済学研究科 ミッション・シェアリング・シート

2017年度 法学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

法学研究科の理念・目的は、東海大学大学院学則（資料 1-3-7-1）の定める東海大学大学院の目的（1条）、博士課程前期の目的（4条）および博士課程後期の目的（5条）をふまえ、同学則別表1（資料 1-3-7-2）において、次のように定められている。すなわち、「法学研究と法学教育を通じて社会に有為な人材を育成すること」を共通の「設置理念」とし、博士課程前期では、「現代社会のニーズに適合した高度な専門知識を修得した法律専門家・指導者を育成すること」、具体的には、「博士課程前期修了後において大学卒の中堅層を指導する法律専門家・指導者を育成すると共に、将来博士課程後期に進学し研究教育職を志望する人材を育成すること」を目的とし、博士課程後期では、「法学研究者等の育成を推進すること」、具体的には、「専門教育を通じて研究者としての能力を養成すると共に、その研究をさらに発展させ博士論文を完成させて博士号を取得し、法学教育を担える法学研究者及び深い専門学識を備えた法律専門職となる人材を育成すること」を目的としている。

こうした法学研究科の理念・目的は、東海大学大学院の目的を適切に具体化したものであるといえる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

法学研究科の理念・目的は大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されている。すなわち、研究科の理念・目的は、「教育上の目的及び養成する人材像」として東海大学大学院学則別表1に掲げられ（資料 1-3-7-2）、大学院要項（Ⅱ）において詳細に記され（資料 1-3-7-3 p. 63）、広く社会に向けてオフィシャルサイトに掲載されている（資料 1-3-7-4）。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

法学研究科においても、東海大学の中期目標に対応したいくつかの施策を設定してはいたが、在学生数がきわめて少ない現状を打開するためのいくつかの施策、すなわち、学部からの進学者を増加させるための説明会の実施やFD委員会の開催（資料1-3-7-5）を実施できただけであった（資料1-3-7-6）。

（２）長所・特色

2004年に法科大学院が制度化された際に、本研究科は課程前期について従来の三専攻から法律学専攻に一本化した。その後、現在、後述のように定員充足に問題をもつものの、専門知識を備えた有為な人材を育て、これまで24名の修了者を出しており（資料1-3-7-7）、その中には、税法を専攻し税理士を目指す学生も多く含まれている（2008年度～2011年度の修了生の修士論文題名等に関して（資料1-3-7-8）、2013年度の修了生の修士論文題名等について（資料1-3-7-9））。

（３）問題点

法学研究科にとって最大の問題は、在学生の減少である。2017年度の在学生は、博士課程前期に1名、博士課程後期に1名の2名のみであった。

（４）全体のまとめ

法学研究科の理念・目的は適切に設定され、周知・公表されている。しかし、在学生数がきわめて少ない現状は問題であり、とりわけ学部からの進学者を増加させるべく、中・長期の計画を策定する必要がある。

（５）根拠資料

- 1-3-7-1 東海大学大学院学則
- 1-3-7-2 東海大学大学院学則 別表1
- 1-3-7-3 2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）
- 1-3-7-4 東海大学オフィシャルサイト（法学研究科 法律学専攻（博士課程〈前期・後期〉））
<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/law/>
- 1-3-7-5 2017年度法学研究科FD活動報告書
- 1-3-7-6 2017年度法学研究科ミッション・シェアリング・シート
- 1-3-7-7 博士課程前期法律学専攻修了者数
- 1-3-7-8 東海法学雑報（東海法学42号、44号、45号、46号から抜粋）
- 1-3-7-9 2013年度学位論文題名

2017 年度 人間環境学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

「建学の精神」（資料 1-3-8-1）と「東海大学中期目標」（資料 1-3-8-2）を踏まえ、教育研究上の目的及び養成する人材像を設定している（「東海大学大学院学則」（第1条の2、別表1）（資料 1-3-8-3）、「東海大学オフィシャルサイト（人間環境学研究科）」（資料 1-3-8-4））。教育研究上の理念は、「持続可能な共生社会」の基盤となる「真に豊かな人間環境」の実現を目指して、「人間の生き方を再考し、豊かさの本質を問い直す」である。また、人材育成の方針を「従来の固定概念にとらわれることなく人間環境を広い視野で考え、共生社会構築に向けて行動できる人材」としている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

「教育研究上の目的及び養成する人材像」に関しては、「東海大学大学院学則」（第1条の2、別表1）（資料 1-3-8-3）、「東海大学オフィシャルサイト（人間環境学研究科）」（資料 1-3-8-4）や「大学院要項」（資料 1-3-8-5 p. 69）に明記されており、それらを通じて教職員および学生に周知するとともに、社会に公開されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中期の計画を設定している（「東海大学オフィシャルサイト（中期目標）」（資料

1-3-8-2))。

（２）長所・特色

研究科の人材育成その他の教育研究上の目的理念・目的は適切に設定されており、大学の理念・目的に合致したものになっている。また、それらは大学構成員に周知され、社会に公開されている。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

大学の理念・目的を踏まえて、研究科の人材育成その他の教育研究上の目的理念・目的は適切に設定されており、それらは大学構成員に周知され、社会に公開されている。また、それらの目的などを実現するために大学として中期計画を設けている。

（５）根拠資料

1-3-8-1 東海大学オフィシャルサイト（建学の精神）

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>

1-3-8-2 東海大学オフィシャルサイト（中期目標）

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html

1-3-8-3 東海大学大学院学則（第1条の2、別表1）

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/>

1-3-8-4 東海大学オフィシャルサイト（人間環境学研究科）

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/human_environmental_studi/

1-3-8-5 2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

2017 年度 芸術学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

芸術学研究科では、「建学の精神」と「東海大学第Ⅱ期中期目標」（資料 1-3-9-1）を踏まえ、以下の理念・目標を掲げている。

『芸術学研究科は、芸術の理論的研究とその現代的課題の究明、表現技術の研究などを目指し、「音響芸術専攻」と「造型芸術専攻」の2専攻を設け、理論と実技・実践の両面から芸術の諸ジャンルにおける高度な専門家養成を図っている。』

音響芸術専攻の教育研究上の目的は、音響芸術（すなわち音楽）の理論的研究とその現代的課題の究明、演奏・歌唱などに関わる表現技術の研究などを通して専門性を深めると共に、多様化、グローバル化した現代の状況に即応し、音響芸術領域さらには他の専門分野も含めた、横断的で柔軟な人材を養成することである。

造型芸術専攻の教育研究上の目的は、美術やデザインに関わる理論的研究とその現代的課題の究明、制作・創作などに関わる表現技術の研究などを通して専門性を深めると共に、多様化、グローバル化した現代の状況に即応し、造型芸術領域さらには他の専門分野も含めた、横断的で柔軟な人材を養成することである。（資料 1-3-9-2 東海大学オフィシャルサイト）

上述した内容から、芸術学研究科の目的は適切に設定されていると判断できる。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

上述した芸術学研究科ならびに両専攻の理念、目的については、「教育研究上の目的及び養成する人材像」として、「東海大学大学院学則 別表 1」（資料 1-3-9-3）に定められており、「2017 年度東海大学大学院要項」（資料 1-3-9-4）、「大学院ガイド」（資料 1-3-9-5）などの印刷物においても明示されている。また、「東海大学オフィシャルサイト」（資料 1-3-9-2）でも学内外に向け公表されている。

以上のことから、芸術学研究科の理念・目的は、適切に周知、公表されていると判断できる。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

2013年度に策定された「東海大学第Ⅱ期中期目標」（資料 1-3-9-1）により、理念・目的・養成すべき人材像、並びに3つのポリシーが明確化され、大学院要項（資料 1-3-9-4）、オフィシャルサイト（資料 1-3-9-2）上などで公開されている。

2018年度からは法人の「学園マスタープラン」のもと定められた「第Ⅲ期中期目標（中期計画）」に移行する予定である。

（2）長所・特色

音響芸術専攻では、音楽学分野のみならず演奏分野の院生についても修了要件として全員に修士論文を課している一方で、特に演奏分野の院生については、原則、学外での修了リサイタルも課している。一般に音大系の大学院が修了演奏会として行うのは、複数が出演するジョイント・リサイタルであるのに対し、当研究科ではソロ・リサイタルとして、各自一人だけで一晩のプログラムを熟さなければならない。この特色ある課題は修了生の力量を大幅に上げてきた（資料 1-3-9-4 p.77）。ただし、2017年度に限っては、演奏分野の修了生がいなかったため、リサイタルは行っていない。

（3）問題点

特になし。

（4）全体のまとめ

上述した様に、本研究科は東海大学の理念や目的を踏まえ、研究科としての目的を適切に設定し、教職員や学生、社会一般に向け、学則等で適切に明示し公表している。

また将来を見据え、大学が定める中長期の目標を基本として、諸施策を設定している。

（5）根拠資料

1-3-9-1 東海大学第Ⅱ期中期目標

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html

1-3-9-2 東海大学オフィシャルサイト 芸術学研究科（修士課程）

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/arts/>

1-3-9-3 東海大学大学院学則 別表1

1-3-9-4 2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-9-5 大学院ガイド（芸術学研究科）

2017年度 体育学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

体育学研究科では、社会のニーズを見据えて、本学の建学の精神である人道主義、人格主義に立脚し、体育学の専門分野について高度にして専門的な理論と応用を教授研究し、豊かな教養と学識そして技能を有する平和で豊かな人類文化の発展に貢献できるような人物を養成することを教育目標としている。

1. 自己の興味をテーマにして研究し続ける人物。
2. 高度な知識を有する、保健体育教員・スポーツ指導者・トレーナー・マネジャーなどの職業人。
3. 競技力の高いスポーツ競技者。
4. 修了後の進学・海外留学などに意欲を持つ人物。（資料 1-3-10-1 p.83）

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

体育学研究科では、大学院要項において研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知している（資料 1-3-10-1）。また社会に対してはホームページで公表するほか（資料 1-3-10-2）、体育学研究科独自のパンフレットを作成して公表している（資料 1-3-10-3）。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学としてその他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

体育学研究科では修士課程までしかなく、今後より高度な専門家を養成するためにも博士課程の設置が必要ではないかという意見があり、運営委員会で発議し活発な意見交換を行った後、教授会で博士課程設置に関する情報を提供した（資料 1-3-10-4）。

（２）長所・特色

本研究科は、体育・スポーツ・健康に関する「研究者養成」のみではなく、保健体育教育、スポーツ指導、スポーツ&レジャーマネジメントなどに関する専門技能を有する人物の育成を推進している。同時に、既に実務に従事している人たちの再教育への社会的要請が高まっていることから、社会人の受入も行っている（資料 1-3-10-5）。さらに運営委員会では、今後に向けて修士課程のカリキュラムの見直しを随時行うとともに（資料 1-3-10-6）博士課程の設置の可能性を検討している（資料 1-3-10-4）。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

本研究科においては、理念・目的を適切に設定し、公表も適切に行われている。また、社会の変化やニーズを踏まえ、育成すべき人材像を確認しながら、中・長期の計画を検討している。その中で本年度は特に、博士課程の必要性を十分に吟味し、設置すべきかどうかも含めて情報収集を行った。これらの活動は、教育研究活動をより充実・向上させるための教員の意識向上のきっかけになった。それらは、運営委員会が定期的に開かれ、活発な討議が行われていることに示される（資料 1-3-10-6）。

（５）根拠資料

1-3-10-1 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-10-2 東海大学オフィシャルサイト体育学研究科

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/physical_education/

1-3-10-3 体育学研究科パンフレット

1-3-10-4 博士課程設置検討資料

1-3-10-5 2018 年度大学院春学期社会人特別入学試験結果人数表

1-3-10-6 体育学研究科運営委員会議題

2017年度 理学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

理学研究科の理念・目標は、大学の理念・目標を踏まえて策定されており、東海大学大学院学則第1条の2の別表1（資料1-3-11-1）に、『理学研究科の理念は、建学の精神を踏まえ、高度な学術理論及び応用を教授し、全体として基礎科学に基づく深い学識及び卓越した能力を培い、高度な専門性が求められる職業を担い、さらには文化の創造発展と人類の福祉に貢献することである。そのために、基礎科学の教育・研究を重んじるとともに、先端技術の開発を推進できる能力の開発に力を注ぎ、科学技術の基礎を支える教育と研究を担う人材を養成することを教育の目標にする。この方針のもとで、社会のニーズや果たすべき役割を見極めることができるように「専門に対応できる基礎力」、「総合的な判断力」、「プレゼンテーション能力」をもつ人材を養成する。』と明記されている。

各専攻（数理学専攻、物理学専攻、化学専攻）の理念・目標は、大学及び理学研究科の理念・目標を踏まえて以下のとおり策定されており、東海大学大学院学則の別表1（資料1-3-11-1）に明記されている。

46年間の修了生の多くが社会で活躍している（資料1-3-11-2）ことから、この理念・目標は適切であったと判断される。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

理学研究科及び各専攻の理念・目標は、東海大学大学院学則第1条の2の別表1に明示されており、本学オフィシャルサイト（資料1-3-11-1）で学内外へ公開されている。また、大学院要項（資料1-3-11-3 pp. 88, 89, 94, 97）にも掲載されており、学生及び教職員に対して研究科・専攻の理念・目標を周知するために使用されている。それに加えて、学生に対しては、年度初めのガイダンスにおいて定期的に周知している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

年度ごとの自己点検・評価報告書の作成の際、理学研究科主任会において、社会情勢などを勘案し理念・目的の適切性について検討を行っているが、今のところ修正の必要性を示唆するデータは得られていない。

（２）長所・特色

理学研究科及び各専攻の理念・目標を「教育研究上の目的及び養成する人材像」として明確にし、学生に周知することで、学生は大学院における講義の目的を理解でき、研究以外の講義にも真剣に取り組むことができている。

（３）問題点

教職員への周知は、理念・目標が記載された大学院要項を配布することだけで行っているが、大学院要項を読まない可能性もあり得る。

（４）全体のまとめ

理学研究科及び各専攻の理念・目標は、適切に設定され大学院学則別表1に明記されており、本学オフィシャルサイト（資料1-3-11-1）上で学内外に公開されている。適切性の検証も定期的に行っている。

（５）根拠資料

1-3-11-1 東海大学オフィシャルサイト 東海大学大学院学則 別表1

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/index/pdf/gakusokubetu01.pdf>

1-3-11-2 東海大学理学部 50 周年史 抜粋

1-3-11-3 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

2017 年度 工学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

工学研究科は建学の精神ならびに学則に則り、「高度な専門性と人間性を兼ね備え国際的な視野を持った人材を育成すること」を基本理念としていることが、2017 年度大学院要項（Ⅱ）（資料 1-3-12-1）に明記されている。各専攻では、専門領域の特性に合わせ、独自のカリキュラムにより高度な専門的学識を与え、指導教員による研究を通じた個別指導により問題発見およびその解決能力を備えた人材の育成にあたっている。また、昨今、地球的規模の環境破壊が懸念される中で、本学の特色でもある正しい歴史観、世界観に基づいた人間形成も重視し、高い技術者倫理と社会貢献への熱意を持った人材育成を目指している。グローバル化した社会を生き抜くために、国際化は避けて通れない時代となっていることを踏まえ、学生の英語教育、国際学会発表の奨励、留学生の支援を積極的に推進している。以上のように、工学研究科は専門性、人間性、国際性に優れた人材育成を目指しており、その教育目的は適切に設定されている。

尚、工学研究科を構成する 5 専攻である電気電子工学専攻、応用理化学専攻、建築土木工学専攻、機械工学専攻、医用生体工学専攻の教育目的は上記の工学研究科の教育理念・目的に沿って設定されている。本 5 専攻は 2016 年 4 月の改組によって設置され、その教育目的は 2016 年度の自己点検評価報告書に記載されている通りである。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本研究科の教育理念・目的は、大学院要項（Ⅱ）に加えて、2017 年度大学院ガイド（資料 1-3-12-2）に明記されており、教職員・学生に周知されている。また、東海大学ホームページ（資料 1-3-12-3）に記載され広く公表されている。さらに工学研究科改組後の 2016 年度に作成した工学研究科ホームページにおいても公表されている。また、前述の専攻毎の教育目的もこれらにおいて周知、公表されている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

本研究科の教育理念・目的の実現のために、国際化の更なる促進、環境改善が必要であり、長期的な実施計画として、英語版のホームページの作成、英語版の各種資料の作成、教員研究活動の英語紹介版の作成を長期計画に掲げている。2017年度より整備を進めており、留学生の受け入れや国際交流に役立つ資料の作成が進みつつある。工研教員の研究分野を示した Researchers list の作成はその一例である。（資料 1-3-12-4）また、研究科発展のためには志願学生数及び入学学生数の維持・増加が必須であり、研究科全体及び各専攻において大学院進学者増加対策を講じ、学部卒業生の 20% の進学率達成を目標に掲げている。現在、本研究科の母体となる工学部・情報理工学部の大学院進学率が 15% 程度であることから 5% の増加が目標となる。

（２）長所・特色

高い技術者倫理と国際性を備えた人材育成のため、研究科共通の実践的コミュニケーション力の涵養を目指した英語必修基盤科目を設置しているのに加えて、工学倫理・知的財産等の知識と考え方を修得する「工学倫理知財特論」を必修科目としている。英語力の向上に関して、必修科目である「Technical English for Engineers」の開講と並行して 1 年次生全員を対象として TOEIC 団体受験を実施していることも大きな特色である。（資料 1-3-12-5）

（３）問題点

前述のように更なる国際化の促進は課題である。工学研究科入学生の中で留学生が占める割合は大きく、今後はイノベティブアジアプログラムによる入学生の受け入れなど益々増加すると予想される。したがって、資料やホームページ等の英語版整備は数年内に実施すべき課題となっている。また、増加する大学院生の居室環境や研究室整備も問題点として挙げられ、この点に関しては大学全体の施設整備方針の下で工学部・情報理工学部とも連携しながら整備を進める必要がある。

（４）全体のまとめ

工学研究科は専門性、人間性、国際性に優れた人材育成を目指しており、その教育目的、方針を学内外に周知・公表して、目的達成に向けた教育を展開している。2016 年度改組によって教育課程の見直しを実施し、国際性の一層の向上及び倫理観の向上を目指している。このような教育課程の充実を図りながら入学生の増加を課題として捉え対策を進めている。

（5）根拠資料

- 1-3-12-1 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ） pp.100-125.
- 1-3-12-2 2017 年度東海大学大学院ガイド pp.26-30.
- 1-3-12-3 東海大学オフィシャルサイト 工学研究科（修士課程）
<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/engineering/>
- 1-3-12-4 Researchers list (Graduate School of Engineering) 2017
- 1-3-12-5 TOEIC L&R IP 団体受験料請求書(2017 年 7 月 24 日付け)

2017年度 情報通信学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

（1）現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の関連性

東海大学全体の理念である「建学の精神」（資料 1-3-13-1）及び東海大学の大学院に共通する教育研究上の目的を定めた学則（資料 1-3-13-2）、に則り、本研究科の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を東海大学学則別表 1 に以下のように設定している（資料 1-3-13-3）。

「世界的に熾烈な競争下にある情報通信分野において、国際的にも通用する深い学識と卓越した技術力を有する人材を育成することを教育研究上の目的とする。教育研究の対象とする中心的な学問分野である、情報メディア学、組込みソフトウェア工学、経営システム工学、通信ネットワーク工学の何れかの専門分野を中心に学修および研究を行なう。また、他の関連分野を横断的に学ぶことができる教育課程を編成することにより、専門分野に関する高度な専門知識と技術力に加え、幅広い関連知識を有する研究者および技術者として、高度な情報通信分野の研究・開発、技術の高度化・高品質化を担う人材を育成する。」

また、本学の理念・目的を踏まえた 3 つのポリシーに基づき、本研究科の 3 つのポリシーとして、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを掲げ、それらの下で各種活動を行っている。

以上より、大学の理念・目的と本研究科の目的は完全に関連性を持ち、本研究科の人材育成その他の教育研究上の目的とその内容は明確に設定されていると言える。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

東海大学大学院学則別表 1（資料 1-3-13-3）、大学院要項（Ⅱ）（資料 1-3-13-4 p.126）、東海大学オフィシャルサイト情報通信学研究科（資料 1-3-13-5）に、本研究科の教育研究上の目的及び養成する人材像について掲出して学内外へ公開している。

上記以外にも、学生に対しては、新入生ガイダンスや在学生ガイダンスで定期的に周知を行なっている。また、教職員については、毎年度、上記の大学院要項（Ⅱ）を配布することによって周知している。さらに、高輪キャンパス公式 facebook ページ、大学オフィシャルサイトのニュース、東海大学新聞なども援用して研究科の目的等にとった研究教育活動の周知及び公表も行っている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

東海大学の中期目標（2014 年度～2018 年度）（資料 1-3-13-6）に従い、本研究科の理念、目的、養成する人材像を実現するための達成目標と実施計画をミッション・シェアリング・シート（資料 1-3-13-7）に設定している。中期目標の第四階層で示された研究科に関する 3 つの細部実施事項について、4 つの達成目標（第五階層）を定め、取り組んだ結果について評価している。

（２）長所・特色

本研究科では、適切に定めた教育研究上の理念・目的及び養成する人材像を具現化するため、大学院教育の充実として修士課程進学者の増加に積極的に取り組み、多くの修士課程学生の発表の機会を設け、また教員、学生による学部生への情報提供を強力に推し進め、2017 年度に定員 100%充足を実現することができた。また学生の国際化を念頭に国際会議出張補助を独自に取り組み効果をあげている。

（３）問題点

特に大きな問題はない。

（４）全体のまとめ

本研究科では、理念・目的及び養成する人材像を適切に定め、それらを刊行物やホームページによって学内外に周知している。中期目標については、大学の目標のもと、研究科独自の目標を掲げ、教員で共有し着実に進めている。また、今後解決すべき大きな課題は無いと認識している。

（５）根拠資料

1-3-13-1 建学の精神

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>

1-3-13-2 東海大学大学院学則

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/>

1-3-13-3 東海大学大学院学則 別表 1

[https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/
regulations/index/pdf/gakusokubetu01.pdf](https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/index/pdf/gakusokubetu01.pdf)

1-3-13-4 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-13-5 情報通信学研究科 情報通信学専攻（修士課程）

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/information_and_telecommu/

1-3-13-6 東海大学中期目標

1-3-13-7 2017 年度ミッション・シェアリング・シート情報通信学研究科

2017 年度 海洋学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

東海大学全体の理念である「建学の精神」及び「建学の精神」を具現化した「東海大学のミッション」を踏まえ、更に、東海大学の大学院に共通する教育研究上の目的を定めた学則に則り（資料1-3-14-1）、本研究科の「教育研究上の目的及び養成する人材像」を東海大学大学院学則別表1に以下のように設定している（資料1-3-14-2）。

「時代の変化に合わせ、海洋に関わる幅広い視野と専門分野の高度な知識・技能を修得し、それらを有機的に応用して海洋に関する諸問題を発見・解決できる能力を育成することにあります。さらに、これらの知識・技能・能力を社会問題の解決へとつなぎ、持続可能な社会の実現に貢献できる高度な専門的職業人を育成することを目指します。」

また、この理念・目的、養成する人材像とともにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー（3つのポリシー）を掲げ、それらの下で各種活動を行っている。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

東海大学大学院学則別表1（資料1-3-14-2）、大学院要項（Ⅱ）（資料1-3-14-3）、東海大学オフィシャルサイト海洋学研究科（資料1-3-14-4）などに、建学の精神、理念・目的、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー（3つのポリシー）について掲出し、学内外へ公開している。以上のことは、学生に対しては入学ガイダンス時に周知を行ない、教職員については上記の大学院要項（Ⅱ）を配布している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

海洋学研究科では、2014～2018年度のミッション・シェアリング・シート（資料1-3-14-5）によって中・長期計画を定め、PDCAを行っている。2017年度では計画を定めた5項目のうち評価Aが2、評価Bが2、評価Cが1項目であった。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

特にないが、3つのポリシーについては研究科全体として表現を統一する必要がある。

（4）全体のまとめ

大学の理念・目的は適切に設定され、それを踏まえて海洋学研究科の目的が設定されている。これらは学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示され、教職員及び学生に周知され、社会に対して公表されている。中・長期の計画も策定されている。

（5）根拠資料

1-3-14-1 東海大学大学院学則

1-3-14-2 東海大学大学院学則別表1

1-3-14-3 2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-14-4 東海大学オフィシャルサイト海洋学研究科

1-3-14-5 2017年度ミッション・シェアリング・シート（海洋学研究科）

2017年度 医学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

「建学の精神」（資料 1-3-15-1）に則り、医学研究科の研究教育上の理念・目的を大学院学則（資料 1-3-15-2 第1条の2別表1（資料 1-3-15-3））に適切に設定している。ここでは、「高い専門性と強い研究志向を持ち、社会の指導的立場を果たすための良識と倫理観を持つ医学及び生命科学分野の研究者、専門医、ならびに医学・生命科学分野の研究に様々な役割を担う専門家、職業人を養成すること」と記述し公表している。

東海大学大学院医学研究科規則（資料 1-3-15-4）及び東海大学医学研究科の教育に関する細則（資料 1-3-15-5）で、博士課程では、「健全な倫理観と研究マインドを備えることによって指導的能力を発揮できる人材」（資料 1-3-15-5 第3条 3）という理念を掲げ、医学及び生命科学分野で活躍できる良識を備えた研究者、研究マインドを持った専門医、並びに医学・生命科学の研究に必要な境界領域の専門家養成することを目的として適切に設定している（資料 1-3-15-4 第3条）。

修士課程では、自然科学領域や人文・社会科学領域のバックグラウンドを有する者を対象として、臨床への還元を十分に意図した研究を実施している指導者の下での教育と研究により、医学・医療に深い造詣を有する高度の職業人の養成とともに、博士課程への進学を目指す学生の育成を目的として適切に設定している（資料 1-3-15-6 pp. 138-139）。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

医学研究科の理念・目的・教育目標については、東海大学大学院学則（第1条の2別表1）、大学院ガイド（資料 1-3-15-7 pp. 34-38）、学園総覧（資料 1-3-15-8 p. 46）、医学研究科ホームページ（資料 1-3-15-9 教育目標・沿革）等に掲出して教職員・学生及び入学希望者などへの公開を進め周知している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

医学研究科長・副科長を中心とした医学研究科大学院教育委員会（資料 1-3-15-10）及び教授会（資料 1-3-15-11）において、研究科を挙げての教育理念の再確認、展開を定期的に行い、それに合わせて、社会状況を鑑み適切性の検証を適宜行っている。

2014 年度に策定された 5 年間の目標設定（東海大学第Ⅱ期中期目標）（資料 1-3-15-12）に従い、教育研究上の目的及び養成する人材像が見直され、3 つのポリシーが明示された（資料 1-3-15-13）。

さらに将来を見据え、中・長期的な視点で「育成すべき人材像」の再検討や「入学者受入れの方針」「教育課程編成の方針」「学位授与の方針」の 3 方針を見直し、その策定を図っている。

（２）長所・特色

特になし。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

医学研究科は、1980 年に開設されて以来、人間性豊かな医学研究者と専門医を養成して医療・医学・生命科学の発展に貢献し、社会的評価を得てきた。このことは、医学研究科修了生の業績や研究成果からも明らかである（資料 1-3-15-9）。

一方で医学・医療の進歩は目覚ましいものがあり、それに応じて医学教育研究上の目的及び養成する人材像を適宜見直す必要がある。変えてはならない理念の確認とともに時代とともに変え対応すべき点を見極め適切に見直しができる運営が望まれる。

（５）根拠資料

- 1-3-15-1 東海大学ホームページ（建学の精神）
- 1-3-15-2 東海大学大学院学則
- 1-3-15-3 東海大学大学院学則 別表 1
- 1-3-15-4 東海大学大学院医学研究科規則
- 1-3-15-5 東海大学医学研究科の教育に関する細則
- 1-3-15-6 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ）
- 1-3-15-7 2017 年度 東海大学大学院ガイド 7
- 1-3-15-8 学校法人東海大学 学園総覧 2017

- 1-3-15-9 東海大学大学院医学研究科ホームページ
<http://www.med.u-tokai.ac.jp/daigakuin/index.html>
- 1-3-15-10 2017 年度第 1 回大学院医学研究科教育委員会議事録（抜粋）
- 1-3-15-11 2017 年度第 1 回大学院医学研究科教授会議事録（抜粋）
- 1-3-15-12 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014 年度～2018 年度）
- 1-3-15-13 東海大学オフィシャルサイト 医学研究科（3つのポリシー）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/medicine/>

2017年度 健康科学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

本研究科は、学校法人東海大学の「建学の精神」に基づいた教育方針に従って広い視野を備えた有能な人材を育成するために教育と研究の充実に努めている。時代の要請に応えるために「医療、看護、福祉の領域が従来の専門性の枠を乗り越え、より総合的な視野に立った保健医療福祉の統合化の実現」を理念としている（資料 1-3-16-1 p.178）。また、同じ伊勢原キャンパスの医学部、医学部付属病院とも有意義な交流が行われている。

養成する人材像は、看護学専攻、保健福祉学専攻の両専攻とも、現場のニーズに即応できるような高度な専門知識と実践スキルを身につけた高度専門職や高等教育機関における教育者・研究者である（資料 1-3-16-1 p.178）。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示

○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

本研究科の理念・目的は、東海大学大学院学則（資料 1-3-16-2）、大学院要項（資料 1-3-16-1 p.178）、本学オフィシャルサイト（資料 1-3-16-3）、健康科学研究科ホームページ（資料 1-3-16-4）等において掲出し、学内外への公開を進めている。

また、教職員についても、新任職員研修、新任教員大学説明会や新任教員フォローアップ研修会にて、建学の精神やそれに基づく本学の理念、教育方針について学ぶ機会が設けられている。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

2013 年度に、本研究科の 2018 年度までの目標設定（東海大学第Ⅱ期中期目標）（資料 1-3-16-5）が策定され、教育研究上の目的及び養成する人材像等が明示されている。

（２）長所・特色

本研究科では、教員の教育活動の充実を図るため、年 2 回の FD 研修会を実施し、ワークショップ形式を取るなど、その実効性を高める努力を積み重ねている。2017 年度には、3 つのポリシー策定に先駆け、「学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化する」というテーマのもと、グループ討議を行った（資料 1-3-16-6）。その結果、研究科の理念、目的、教育目標等はより明確になった。

（３）問題点

2018 年度カリキュラム改訂を踏まえ、FD 研修会での討議結果を参考に、育成すべき人材像」ならびに「3 つのポリシー」の見直しをさらに進める必要がある。

（４）全体のまとめ

本研究科では、毎年自己点検・評価を実施し、専攻会議、研究科教授会での討議を経て、その結果を次年度の活動方針に反映させている。今後は、各教員に教育研究上の目的及び養成する人材像のさらなる周知を図る方策を検討する。

（５）根拠資料

1-3-16-1 2017 年度東海大学大学院要項（Ⅱ）

1-3-16-2 東海大学大学院学則（別表 1）

1-3-16-3 東海大学オフィシャルサイト 健康科学研究科

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/health_science/

1-3-16-4 健康科学研究科ホームページ

<http://mnwm.ihs.u-tokai.ac.jp/>

1-3-16-5 東海大学第Ⅱ期中期目標（2014 年度～2018 年度）

1-3-16-6 2017 年度第 2 回大学院 FD 研修会

2017年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

[第1章] 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

本学の「建学の精神」（資料 1-3-17-1）および「東海大学のミッション」（資料 1-3-17-2）を踏まえ、東海大学大学院学則第1条（資料 1-3-17-3）の「本学大学院の目的」に基づいて農学研究科の教育研究上の目的及び養成する人材像を次のように定めている（資料 1-3-17-4）。

「生物の多様な機能を理解し、生物生産及び生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な研究者・技術者の育成を目標として、生物がもつ多彩な生命現象の仕組みや原理を解明するとともに、生物生産を中心に環境保全や食の安全性など、人類の福祉向上に寄与できる、基礎から応用まで密接に連携させる教育・研究を実践する。」

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

東海大学大学院学則（資料 1-3-17-3）ならびに農学研究科の教育目標や養成しようとする人材については本学オフィシャルサイト（資料 1-3-17-5）において学内外に公表している。また、学生を含む大学院構成員に対しては大学院要項（資料 1-3-17-6 pp.194-195）の配布によってより詳細に周知している。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点

- 将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

本学が取り組むべき課題に対して「教育」「研究」「社会連携」「国際連携」「管理・支援

体制」の5つの重点項目を設けた第Ⅱ期中期目標（大学のあるべき姿）を策定し（資料1-3-17-2）、本学オフィシャルサイトにおいて学内外に公表している。また、中期目標を達成するためにミッション・シェアリング・シートを用いて具体的な諸施策を設定し（資料1-3-17-7）、進捗状況に対する自己評価を実施するとともに、PDCA サイクルの円滑な運用に活用している。

（２）長所・特色

特になし

（３）問題点

農学研究科では、震災後暫定的に熊本キャンパスにおいて授業を実施し、阿蘇キャンパスでは安全性を確保した上で使用可能な部分においてフィールド活動を実施しているが、震災前の教育・研究体制には至っていない。再建に向けた3つの基本的な方向性、すなわち「宇宙情報センターの用地を活用した新キャンパスの整備」「研究活動および地域連携活動の充実」「阿蘇実習フィールドの施設整備」が示されたものの（資料1-3-17-8）、今後の具体的な計画の立案および迅速かつ効率的な運用が重要である。

（４）全体のまとめ

農学研究科の目的は適切に設定され、本学オフィシャルサイトおよび大学院要項を通じて教職員、学生および社会に対して適切に周知されている。また、中期目標を達成するためのPDCA サイクルの円滑な運用が組織的に実施されている。今後は、本研究科の理念・目的を実現するために震災後の創造的復興を適切に進めていく必要がある。

（５）根拠資料

- 1-3-17-1 東海大学オフィシャルサイト（建学の精神）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/spirit/>
- 1-3-17-2 東海大学オフィシャルサイト（東海大学第Ⅱ期中期目標）
https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/index2.html
- 1-3-17-3 東海大学オフィシャルサイト（東海大学大学院学則）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/>
- 1-3-17-4 東海大学オフィシャルサイト（東海大学大学院学則 別表1）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/index/pdf/gaku-sokubetu01.pdf>
- 1-3-17-5 東海大学オフィシャルサイト（農学研究科農学専攻）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/agriculture/>
- 1-3-17-6 2017年度東海大学大学院要項（Ⅱ）
- 1-3-17-7 2017年度ミッション・シェアリング・シート（農学研究科）
- 1-3-17-8 東海大学オフィシャルサイト（農学部・農学研究科再建に向けた方向性について）
https://www.u-tokai.ac.jp/ex/kumamoto_earthquake/detail/post_5.html